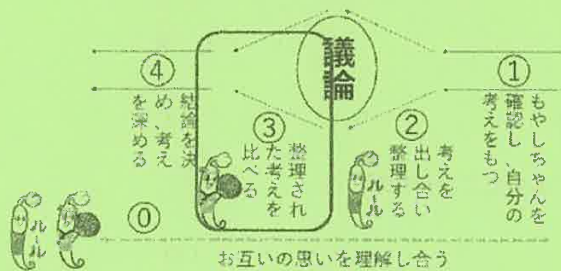


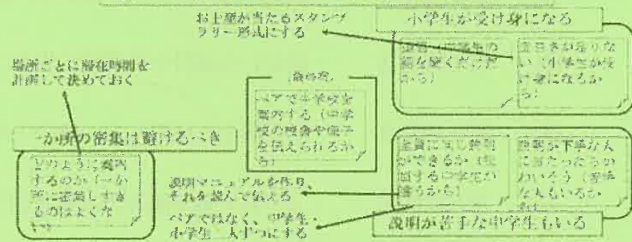
合意形成に向け、 主体的に考えを広げ深め話し合う 指導法の工夫 ～話し合い学習プログラム 統合編～

【話し合いの基本的な流れ】



「もうひと工夫」とは？

目的「表現できるより良い考えを、書でつくり上げること」
【テーマ】小学生との交流会で何をする？



東京都教育研究連盟
令和4年7月30日

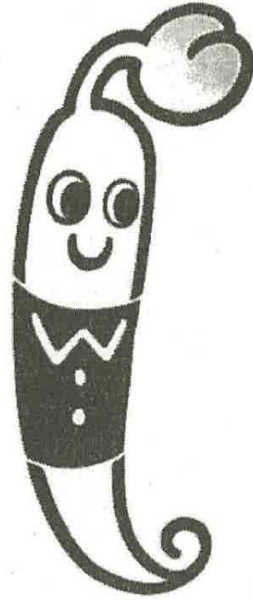
目 次

1	研究の概略	1
	「合意形成に向け、考えを広げ深め話し合う指導法の工夫 ―話し合い学習プログラム―」	
(1)	主題設定の理由	1
(2)	研究の概要	1
	(育成する言語能力、研究のねらい、研究の内容・方法、指導上の工夫)	
(3)	単元の指導計画・評価計画	3
(4)	研究の成果と課題	5
2	話し合い学習プログラム	6
(1)	第1時間目 ・適切な話し合いについて関心をもち、 そのために必要なことを理解する	7
(2)	第2時間目 ・異なる立場や考えを受け止め 様々な考えを引き出す質問をしながら聞く	10
(3)	第3時間目 ・質問の仕方を工夫しながら、相手の思いを理解する	14
(4)	第4時間目 ・話し合いの材料を効果的に集め、整理する	18
(5)	第5時間目 ・意見同士を比較して、自分の考えを広げる	23
(6)	第6時間目 ・より良い取り組み方を考え出し、考えを深める	28
(7)	第7時間目 ・第6時まで+話し合いを振り返る時間として使用)	
(8)	資料 (第1時～第7時プリント)	31

4・5・(6) 時には練習用プリントあり

6・7時には、報告用+振り返り用(2種類)プリントあり

聴き方1 (共感) 広げる



もやしちゃん

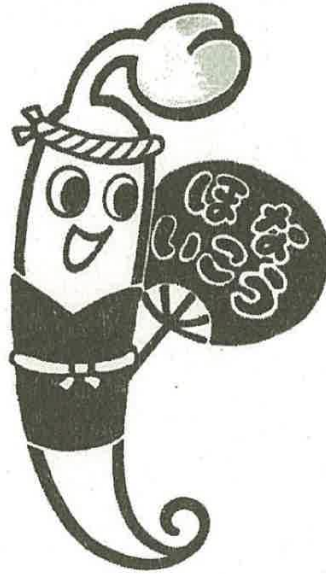
も
やし
し
ちゃんと

あ
お
い
ふく

目的
役割
進行
(ちゃんと) ルール
を守ろう!

あいづち
驚き
言いかえ
復唱

聴き方2（論理性）深める



もやしちゃん

も
やし
し
ちゃんと

目的
役割
進行
(ちゃんと) ルール
を守ろう！

ほ
な
い
こう

ほんと？
なぜ？
いつもそう？
こうすれば？

合意形成に向け、主体的に考えを広げ深め話し合う 指導法の工夫 ～話し合い学習プログラム 統合編～

I 主題設定の理由

平成20中学校学習指導要領では、各教科等において言語活動を充実することが示され、多くの学校で、話し合い活動を取り入れた授業が活発に行われるようになっていった。しかし、平成24年には「中学校等の新学習指導要領の全面実施に当たって」初等中等教育局長通知の中で、「言語活動そのものを目的化するなど本来の趣旨にそぐわない運用になることのないよう留意」することが示され、言語活動の充実に対する課題があげられた。この課題に対し、本研究部はその一因を、「話し合いという活動は用意されても、課題解決を達成するための話し合いを、どのように行えば良いのかを、授業者や学習者が自覚しておらず、適切な話し合い活動が行われていないため」ととらえた。

しかし、それはある種仕方のないことだともいえる。例えば、数学科や社会科の教員は、一義的には教科の内容を教える立場であり、話し合いの方法を教える立場ではない。話し合いに関わる言語能力の育成は、本来、国語科が担うべきであり、国語科の責任において培った能力を基本に、他の教科等の話し合いが充実したものとなるようにすべきものである。

そこで、本研究部では、話し合い活動の工夫をテーマに、各教科等の話し合い活動に資する指導法の研究を平成25年より開始し、平成28年に「合意形成に向けて、主体的に考えを広げ話し合う指導法の工夫－話し合い学習プログラム－（基礎編）」、令和元年に「合意形成に向けて、主体的に考えを広げ話し合う指導法の工夫－話し合い学習プログラム－（発展編）」として発表する機会を得た。

平成29中学校学習指導要領でも、言語活動の充実は、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成する活動として受け継がれ、改めて、それら「言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科の特質に応じて、生徒の言語活動を充実すること。」(総則)が示された。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が、各教科等の指導でますます求められる中、各校のカリキュラム・マネジメントと連動を図り、各教科等における話し合いがさら充実したものとなるよう、国語科としてより充実・深化させた、新たな話し合い学習指導法の開発が求められている。

II 研究の概要

1 育成する言語能力

- 合意形成を目指して話し合いの進め方を工夫し、お互いの考えや思いを理解・表現し伝え合う力
- 既習の学びを生かして進んで話し合いに取り組み、協働し集団の考えを発展させようとする態度

2 研究のねらい

心理的に安全な場における、合意形成に向けた話し合いの仕方を学習させる。話し合いのそれぞれの段階で必要な技術を抽出・精選し、授業一単位時間の前半部で基礎的な知識・技能を学ばせ、後半部の言語活動で学んだ技術を使って自ら思考・判断・表現させる。適切な振り返りを実施することで、協働して話し合いを運営したことや、話し合いにより思考を深め納得感の高い合意形成を果たしたこと等、各自が学んだことの有用性を実感させ、主体的な学び手を育てる。

3 研究の内容・方法（H25からR2まで）

本研究部では、話し合いによる他者との協働を通して、自己の考えを再構築し、自分の考えを広め深める力を思考力と捉えた。そして、そのような思考を経て、より高い知的創造のある合意形成に至る話し合いを、自分達の手で生み出す力を育成すべく、平成25年度より継続して研究を進めてきた。ねらいを明確にした学習を通して、話し

合う力を一つずつ確実に身に付けたり、視点を明確化して行う振り返りの中でメタ認知を強化し、次への学習への課題を共有したりする中で、価値ある話し合いへの学習意欲を高め、主体的な学び手を育ててきた。

研究の最終目標を、令和元年度より、平成29中学校学習指導要領〔思考力・判断力・表現力等〕話し合うことオ「進行の仕方を工夫したりお互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりする」能力の育成とした。また、将来的には、さまざまな場で、自分達で自立的に話し合いを企画、進行し、納得感の高い合意形成を図ることができる力の育成を目指すことにした。そして、そのために有用な技術として、ファシリテーションスキルに注目した。本来、ファシリテーションスキルは色々の立場の人間が、安心安全な場で、それぞれの持つ力を最大限発揮し、合意形成し、新たな知と行動を生み出していくために生み出された技術である。技術ゆえに、学べば誰でもそれを使い、一定の効果をあげることができると考えられる。そこで、ファシリテーションの技術を援用しながら、目標に向けての授業実践を、一つひとつ探っていくこととした。

平成25年度は、「話し合い」の前段階の「対話」に注目し、「話す」力よりもまず「聴く」力を高めつつ、相手と関係を築く力、お互いを理解するよう対話を深める力の育成を図った。本授業を通し、相手を尊重し「思い」を受け止めることによって、参加者相互の満足感を引き出し、実行につながる価値ある合意形成に至る事を目指した。話し合いにおける「聞くこと」重視の方針はその後受け継がれていった。

26年度は、国語科の視点からではなく、国語科の話し合い学習が、各教科等の言語活動（話し合い）を下支えする事を前提に、他教科等の視点から、どのような話し合う力や技術を国語科で身に付けさせれば良いのかを考えた。道徳の学習を想定し、実際に模擬授業をやった上で、道徳科の話し合い活動に役立つ学習を国語科で構想した。身に付けるべき力・技術として上がったものの中から、「話し合いの進行を助ける道具の知識と使用技術（可視化も含む）」について授業を行った。マトリクス等のツールを活用することで、話し合いを可視化し、円滑に進めることができた。生徒の納得感も高く、自分の役割を果たそうという姿勢も見られ、今後も他教科における話し合い活動への積極的な取り組みが期待できた。ただ、生徒の多様な話し合い学習歴や、判断基準の設定や選択等マトリクス使用時の課題他、実用段階での細かな課題が見つかった。

27年度からは、他教科等の指導に役立つ、国語科としての話し合い学習プログラムの作成にとりかかった。汎用性の高い話し合う力の育成として、昨年度に整理した、身に付けさせたい力・技術をさらに整理し、6時間の学習計画の中で、一通り身に付けることができないかを研究した。さらに、昨年取り組んだ発散・収束の話し合いの過程において、特に課題となった議論の構造化、可視化について、研究授業を行い、構造化の技術の習得と、その実践力の育成を図った。「もやしルール」や傾聴のスキル（もやしちゃんとあおいふく）等、話し合いにおいて意識すべきことを累加的に指導してきたことで、習慣化することができ、計画的なプログラムの有用性が確認できた。ただ、テーマの設定の妥当性や、振り返りの内容等、検討の余地があることがわかった。

28年度は、どの指導者にとっても、利用しやすく、どの生徒にとっても、確実に一定の話し合う力がつく話し合い学習プログラムとなるよう、リライトに取り組んだ後、今までの研究の成果として、「話し合い学習プログラム（基礎編）」を冊子化して発表した。発表時、キャラクターの設定や、ペイオフマトリクス活用の有効性が認められたが、共感的な傾聴姿勢に結びつく「あおいふく」が、収束する話し合いにおける反論場面ではどのように生かせるのかという疑問や、深い学びに迫る、最後の「もうひと工夫」の進め方に対する疑問等が提示された。また、基礎編発表後、ペイオフマトリクスで対応しきれない、三つ以上の判断基準の合意方法や、ふせんを使用しない発散の方法、共感的かつ論理的に聴くための方法等、さらに高度な話し合う力を国語科で学ぶため、新たな話し合いプログラム（発展編）の作成にも着手することにした。

29年度は、提示された疑問に対して答える形で研究を進めた。基礎編をリライトし、合意形成の段階を、2時間構成とし、ペイオフマトリクスによる合意形成の過程と、「もうひと工夫」と名付けた納得感を高めるための試行錯誤の過程に分け、学習過程を一層明確化した。このことにより、時間の十分な確保ができ、試行錯誤によって授業者が深く学ぶことや、どんな学習活動を通して何を学んだのかをメタ認知することにつながった。発展編では、基礎編を終えた中学2年生以上を対象に、論理的合意形成に焦点をあて、指導過程を協議した。

30年度は、仮プログラムを作成した。基礎編と同様に、話し合いの過程に沿って、さまざまなプラン候補が上がっては消えていった。「問いを立てる」ことのように、実際に研究授業を行う段階までいきながら、不採用となったプランもあった。活動が目

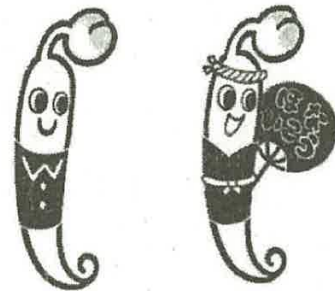
的とならぬよう新学習指導要領に学び、付けたい力を明確にし、そのための言語技術を精選した。枠決めのための前提条件、意見対立の解消方法を視点としての「ほないこう」、発散や収束のマッピング・星取表等を用いて、お互いの考えや思いを理解し、協働しながらより納得感の高い合意に練り上げる学習過程を組んだ。ただ、授業を試行する中で、時間不足や、課題設定の可否など、実施上の課題が多く見つかった。

令和元年度は、「誰でも、どんな生徒でも」という、プログラム作成当初のねらいに立ち返り、実施上の課題を一つ一つ検討していった。深い学びに直結する「もうひと工夫」やメタ認知につながる振り返りの充実等、予備授業を行いながら、より効果的なプログラムに仕上げていった。また、「児童生徒の学習評価の在り方について」「学習評価の在り方ハンドブック」等から、評価基準について再考を行った。今までの研究の成果として、「話し合い学習プログラム（発展編）」を冊子化して発表した。

令和2年度は、「基礎編・発展編」の発表後、実際に本プログラムを取り入れた学校からのフィードバックとして、「特別の教科 道徳」や「総合的な学習の時間」といった、国語科以外の時間での本プログラムを活用することの有用性ととともに、実施時間数の確保の難しさといった実態などが浮かび上がった。そこで、全13時間のプログラムの要諦を抽出し、全7時間による、教科を超えた「誰でも、どんな生徒でも」を目指した「統合編」の作成をおこなった。

4 ねらいを達成するための指導上の工夫

- (1) どの生徒もこの学習プランを学ぶことによって、話し合いの技術を、一定の基準に揃えることができるようにした。同様に、教授者の経験を問わず、この学習プランを学習させることによって、主体的・対話的で深い学び導入時の話し合う力を育成できるようにした。
- (2) 話し合いの過程を、「考えをもつ」「考えを出し合い、整理する（発散）」「考えを比較する（収束）」「考えを深める」という4段階で捉え、それぞれの段階で必要なスキルを抽出・精選した。さらに、精選したスキルをネーミングし、定着しやすいようにした上で、それぞれの段階で活用できるようにした。
 - ア 「もやしちゃんとおおいふく」
話し合いの前提としての「も（目的）や（役割）し（進行）ちゃん（ちゃんとルールを守ろう）」と、共感的な聴き方としての「あ（相槌）お（驚き）い（言い換え）ふく（復唱）」。
 - イ 「もやしちゃんとはないこう」
論理的な思考につながる、意見の背景にあるものを引き出す質問としての「ほ（ほんとう？）・な（なぜ？）・い（いつもそう言える？）」と、そうして見いだされた双方の一致点を踏まえて、新たな提案を導き出し議論を発展させる視点を加えた質問としての「こう」（こうすれば？）。
- (3) 生徒に臨場感と意欲をもたせるテーマ（フィクションではないもの）を設定した。
- (4) 単位時間の前半で、抽出した技術について学び、後半の言語活動で学んだ術を実際に活用させることで、各自が学びを実感し、次時への意欲を育てる授業を構築した。
- (5) 学習プリントを工夫し、個の思考から集団の話し合いを経て自分の考えの再構築へと至る学習の流れを繰り返す、振り返りの視点を明確化（スキルに関することと、考えの広がり深まりに関すること）することにより、身に付けるべき力が確実に身に付いたかを自ら振り返り、自覚できる学習過程を組んだ。
- (6) 行動変容の意欲につながる、最終合意への試行錯誤の過程を、意図的に「もうひと工夫」として組み入れ、より納得感を高めた合意形成へ導いた。
- (7) ICT 教具を活用し、各時間に取り組みさせる活動をパワーポイントで事前に例示することで、生徒に見通しと、より多くの活動する時間をもたせられるようにした。



もやしちゃんとおおいふく
「あおいふく」「ほないこう」

5 単元の指導計画と評価計画（全7時間扱い）

学習内容・学習活動	学習活動に即した具体的な評価基準と評価方法
-----------	-----------------------

1	<p>①これまでの生活を振り返り、良くなかった話し合いについて考える。</p> <p>②良い例や良くない例から、安心感のある話し合いのために必要なことを指摘する。</p> <p>③「②」について、共有・整理することを通して理解する。(=“もやしちゃん”)</p> <p>④この単元で学ぶことについて理解する。</p>	<p>【主】→より良い話し合いのために意識すべきことを自分なりに捉え、学習の見通しをもっている。[観察、ワークシート]</p>
2	<p>習得スキル: 話の受け止め方・引き出し方</p> <p>① 良い例を良くない例から、安心感のある話し合いのために必要なことを指摘する。</p> <p>② 「①」について、共有・整理することを通して理解する。(=“あおいふく” “深める質問” “広げる質問”)</p> <p>③ 「②」を活用して、ペアでインタビューしあい、気付いたことを振り返る。</p>	<p>【思・判・表】Aエ→質問したり発言を促したりしながら相手の考えをとらえ、自分の考えを広げている。[観察 ワークシート]</p>
3	<p>習得スキル: 意見対立の解消の仕方</p> <p>① 姉弟の会話における良い例を良くない例から、意見対立の解消を図る話し合いのために必要なことを指摘する。</p> <p>② 「①」について、共有・整理することを通して理解する(=“ほないこう”)</p> <p>③ 「②」を活用して、ペアで話し合い、気付いたことを振り返る。</p> <p>練習テーマ: 学年レクの内容を考えよう</p>	<p>【知・技】(2)ア→「本当?」「なぜ?」「いつも?」などの質問に対して、根拠や理由となる内容を答えている。[観察]</p> <p>【思・判・表】Aオ→「本当?」「なぜ?」「いつも?」「こうすれば?」などと根拠や理由の確かさを確かめながら、相手との考えの一致点を見出している。[観察 ワークシート]</p>
4	<p>習得スキル: 意見の出し方・整理の仕方</p> <p>① 「小学生との交流会」の例を基に、「あおいふく」を踏まえた意見の出し方と整理の仕方について理解する。(=“ブレスト・シグ” “グルーピング”)</p> <p>② 「①」を活用して、ペアで練習する。</p> <p>練習テーマ: 学年レクの内容を考えよう</p> <p>③ 「①」を活用して、グループで話し合い、気付いたことを振り返る。</p> <p>本テーマ: この街を笑顔にする活動</p> <p>は?</p>	<p>【知・技】(2)イ→付せんに示された意見の根拠や類似点を捉えている。[観察 ホワイトボード]</p> <p>【思・判・表】Aエ→質問したり発言を促したりしながら相手の考えをとらえ、自分の考えを広げている。[観察 ワークシート]</p>
5	<p>習得スキル: 意見の比べ方</p> <p>① 「小学生との交流会」の例を基に、「ほないこう」を踏まえた意見の比べ方について理解する。(=“ペイオフマトリクス”)</p> <p>② 「①」を活用して、ペアで練習する。</p> <p>練習テーマ: 学年レクの内容を考えよう</p> <p>③ 「①」を活用して、前時と同じグループで話し合い、気付いたことを振り返る。</p> <p>本テーマ: この街を笑顔にする活動</p> <p>は?</p>	<p>【知・技】(2)イ→ペイオフマトリクスを活用して、複数の意見を一定の評価項目に基づいて比較している。[観察 ホワイトボード]</p> <p>【思・判・表】Aオ→理由を示しながら意見を比較することを通して、互いの発言を生かし、自分の考えをより確かなものにしていく。[観察 ワークシート]</p>
7	<p>習得スキル: 意見の決め方</p> <p>① 「小学生との交流会」の例を基に、「あおいふく」「ほないこう」を踏まえた意見の決め方について理解する。(=“もうひと工夫”)</p> <p>② 「①」を活用して、ペアで練習する。</p> <p>練習テーマ: 学年レクの内容を考えよう</p>	<p>【思・判・表】Aオ→最終案に対して多面的に課題を見出し、より効果的な取り組み方について理解を広げている。[観察 ワークシート]</p> <p>【主】→学んだことの意義を振り返り、それらを様々な場面で生かそうとしている。[ワークシート]</p>

<p>③「①」を活用して、前時と同じグループで話し合い、気付いたことを振り返る。</p>	
<p>本テーマ：この街を笑顔にする活動は？</p>	
<p>④各グループで結論をまとめ、それらを共有することを通して、この単元で学んだことを振り返る。</p>	

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

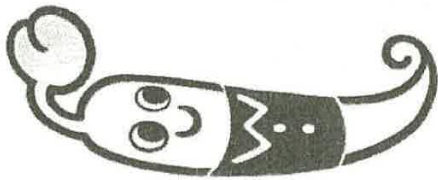
- (1) 授業で扱う内容を改めて精査したことで、他教科での話し合いに資する必要最小限のスキルを短時間で、効率的に指導することができた。【成果】
- (2) ICT 教具（パワーポイント）を活用することで、生徒に見通しと、より多くの活動時間をもたせられ、かつ、指導者が異なっても同様の説明が行えるようになった。【成果】
- (3) 共感的な聴き方（あおいふく）と、論理的な思考につながる質問（ほないこう）を、単元を通して、それぞれ意図的に活用させることができた。【成果】
- (4) 授業で扱う内容を改めて精査したことで、テーマを自分たちで設けたり、解釈したりすることや、発散・収束において自らスキルを選ぶことについては、別に指導する必要性が生まれた。【課題】
- (5) 生徒が学ぶペースを踏まえると3時間で二つのスキルを指導する指導展開となり、ワークシートの構成を1時間ごとの内容にできなかった。【課題】
- (6) 第7時において、単元のまとめとして、他のグループと結果を共有したり、単元全体の振り返りをしたりする時間を、十分に確保できなかった。【課題】
- (7) 指導案を工夫すること（指導案4次・6次網掛け部分を省略）によって、第7時に全体の振り返りをしっかり行うことができ、深い学びを生み出した。【成果】

※話し合い学習プログラム（統合編）は、指導案・ワークシート・各授業説明用パワーポイントデータを、東京都中学校国語教育研究会HPよりダウンロードできます。

（東京都中学校国語教育研究会HP→お知らせ→2021→3P→2月17日）



話し合い学習プログラム指導案 1～6 (7)



もやしちゃん

もやしちゃん
 ちゃんと
 ルール
 を守ろう！
 あいづち
 驚き
 言いかえ
 復唱

1 第1時 (7時間扱い)

- (1) ねらい
 より話し合いのために意識すべきことを自分なりに捉え、学習の見直しをもつ。
 ①適切な話し合いについて関心をもつ。
 ②適切な話し合いのために必要な言語技能を理解する。
- (2) 展開 必要なもの：ワークシート①・黒板掲示用短冊 (記入済みと白紙)・もやしちゃんイラスト

・計時用の大きなタイマー

時間	学習内容・活動	教師の働きかけ	生徒の具体的な活動	指導上の留意点 ■評価の観点・方法
導入 5分	1 本時の目標を捉える。	1-1 「これまでに、うまくいかなかった話し合いは、どんな話し合いでしたか。」 1-2 「今日の目標は『良い話し合いを行うために必要なことを理解する』です。」	●「予想される反応」 ●「意見が出ない」 ●「時間が足りない」 ●「決まったことに納得できな」 ○「板書された目標を見て確認している。」	□指導上の留意点 ■評価の観点・方法 □本時のワークシートを配布する。 □「本時の目標」の箇所を示す。
展開 42分	2 良い話し合いに必要なことを考える。(25分)	2-1 「今から、2つの『図書委員会における話し合い』を代表4人にやってみてもらいます。2つの話し合い活動を聞き比べて、どちらがより良い話し合い活動であるか判断してください。」 2-2 「より良い話し合い活動に必要なことをワークシートに記入しましょう。」	○①と②を比較し、より良い話し合い活動に必要なことをワークシートに整理、記入する。 ●「意見を考える時間がある」 ●「記録がいる」 ●「時間配分をしている」 ●「全員が意見を言っている」 ●「話し合いの具体的な目標がある」	□ワークシートを、ここで配布する。 □簡潔な言葉で書くように簡条書きを指示する。 ■より良い話し合いに必要なことをワークシートに記入している。(ワークシート)
	2-3 「より良い話し合いに必要なことを発表しよう。記入できていない回答があれば、ワークシートに色ペンで追加しましょう。」		○より良い話し合いに必要なことを発表する。 ●ワークシートと比較し、赤で記入している。 ●ワークシート内にある回答にチェックをしている。	□「もやしのルール」に即して黒板に板書する。 ■ワークシートに記入された回答と比較し、書き写している。(観察・ワークシート)
	2-4 「この分類に、分類名をつけましょう。ヒントはこのイラストです」「これは、よい話し合いをするためのイメーჯキャラクターです。」「名前は何か?」「名前は「もやしちゃん」と言います。」		●「もやし!?!」	□もやしちゃんイラストを提示

3 良い話し合いに必要なことを理解する。(15分)	3-1 「皆さんが気付いたように、「もやしちゃん」には良い話し合いを行うために必要なことが込められています。1つめは『目的』です。2つめは、『役割』です。3つめは、『進行』です。4つめは「ちゃんどルール」を守ろうの『ルール』です。これらの話し合いに必要なことの頭文字を取ると『も・や・し・ちゃん』となります。「話し合い」では『もやしちゃん』を大切にしましょう。	○ワークシートにある「もやしちゃん」と「話し合いの基本プロセス」について説明を聞く。 ●ワークシートを確認し、重要な語句を記入する。	□ワークシートを裏面にさせ、職員と児童の両方で確認できるようにする。 □『も・や・し・ちゃん』の意味がより実感できるように、指導者がプリント表面の例に合わせながら説明する。 ■ワークシートを確認しながら、重要な語句を記入している。(観察)
4 1 単元について見直しをもうつ。(2分)	3-2 「次に、話し合いの進行には基本となる形があります。初めに、場作りをして自分の考えをもち、次にお互いの考えを出し合い、そこからお互いの考えを整理し、そうしてお互いの考えを深めます。この「共有」→「発散」→「収束」→「合意」の順が話し合いの基本形となります。【話し合いの基本プロセス】の表を見て分かるとおおり、「発散」と「収束」で、議論は最も活性化されます。」	●「共有」「発散」などの語句に線を引いている。	□『話し合いの基本プロセス』の意味がより実感ができるように、指導者がプリント表面の例に触れながら説明する。 ■ワークシートを確認しながら、重要な箇所を引いている。(観察)
5 本時の学習について振り返りをする。(3分)	3-3 「その流れを、話し合いの目的や時間配分と一緒に示したものが、『目的に沿った進行のイメージ』です。話し合いをするときには、このような話し合いの設計図を準備して臨むと、良い話し合いになります。」	●「共有」「発散」などの語句に線を引いている。	□『目的に沿った進行のイメージ』の意味がより実感できるように、指導者がプリント表面の例に触れながら説明する。 ■ワークシートを確認しながら、重要な箇所を引いている。(観察)
5 本時の評価	4-1 「この単元では、自分たちで良い話し合いができるように、次の7つについて学んでいきます。それは、…、…です。」	●「良い話し合いに必要なこと」と「相手の話を受け止める聞き方」などの語句に線を引いている。	■ワークシートを確認しながら、重要な箇所を引いている。(観察)
5 本時の評価	5-1 「最後に、本時の目標を振り返りましょう。『振り返ろう』に自己評価を記入してください。」	○本時の学習を振り返り、ワークシートに評価を記入する。 ●成果と課題を認識する。	■4段階で自己評価している。
5 本時の評価	5-2 「次の時間は、話を受け止める、話を引き出すための聞き方について学習します。」	○次の時間の見直しをもうつ。	

(3) 本時の評価

- ① 「良い話し合いのために必要なこと」について、気付いたことを意欲的に話したり、人の意見を聞いたりしようとしている。
- ② 「もやしちゃん」と「話し合いの基本プロセス」を理解している。

(4) 授業のポイント

- 1-1 部活動や委員会活動、学級活動だけでなく、友人同士での話し合いも想起させる。
- 2-1 2つの話し合いを比較する際に、判断することが難しい生徒に対しては「②に比べて、①のほうが【何が「どうだ」】のように具体的に書かせる。」
- 2-3 タイマーを用いて共有する時間を表示する。カウンタダウン形式にしておく、生徒が残り時間を確認しやすい。
- 2-4 意見を出させるとき、短冊に記入する。(予想される回答については予め用意しておき、予想外の回答のみその場で記入する)短冊は、マグネットつきクリップが裏面マグネットで黒板に掲示する。PPを表示しながら同様の操作もできるが、ここは黒板上の操作の方が、予想外の回答が出たときに対応しやすい。
- 2-4 短冊は、最初は整理せず、ランダムに掲示し、その後目的・役割・進行・ルールに分類する。
- 3-1 必要なことを説明する際には、「目的・(目標)」「役割」「進行」と板書するだけでなく、ふりがなを付けておく、と頭文字の説明がしやすい。目的は、成果(話し合いのゴール)だけでなく、価値(話し合い後どんな気持ちになっているか)を含めて考える。
- 3-2 話し合いの進行を説明する際には、それぞれがどのような意味をもつ言葉なのかを具体例を用いながら話す、と生徒が受け入れやすい。
- 4-1 単元についての見直しをもたせる際に、本時の内容をしっかりと確認すると、生徒が振り返りやすくなる。

第2時 (7時間扱い)

- (1) ねらい
質問したり発言を促したりしながら相手の考えをとらえ、自分の考えを広げる。
①異なる立場や考えを受け入れながら聞く。
②多様な話を引き出す質問をしながら聞く。
- (2) 展開
必要なもの：ワークシート②・もやしちゃんイラスト・計時用の大きなタイマー

時間	学習内容・活動	教師の働きかけ	生徒の具体的な活動	指導上の留意点
導入 2分	1 これまでの学習を振り返り、本時の目標を捉える。	1-1 「前の時間に良い話し合いに必要な『もやしちゃん』について学習しました。もよしの『も』は何ですか？……(一つ一つ確認)」 1-2 「今日の目標は、『異なる立場や考えを受け止めながら聞く』と、『色々な話を引き出す質問をしながら聞く』の2つです。」「今日は『話の受け止め方』と『質問の仕方』のスキルを学習します。今日も言葉が出てきます。	○生徒の具体的な活動 ●予想される反応 ○「もやしちゃん」を思い出して質問に答える。 ○板書された目標を見て確認している。 ○「本時のスキル」を確認する。	○指導上の留意点 ■評価の観点・方法 ■これまでの学習内容に思い出し、質問に答えている。(観察) □本時のワークシートを配布する。
展開 45分	2 話の受け止め方や質問の仕方について考える。(15分)	2-1 「初めに、左右2つの例から、気持ちの良い会話のために必要なことを考えてみましょう。次の例は、『その人の魅力を引き出すペアインタビュー』の例です。ペアインタビューの受け止め方について、①と②を比べてみましょう。では○○さんと○○さん、ちょっとやってみてください。……」 2-2 「①と②を比べてみて、話の受け止め方や質問の仕方について気付いたことをワークシートに記入しましょう。」	○代表生徒には、全体の前で、みんなに聞こえる声で例文を読ませる。 ■話の受け止め方や質問の仕方について気付いたことをワークシートに記入する。 ●「①のAは投げやりな感じ」 ●「②のAは温かい感じ」 ●「②のBはたくさん話している。」	□「本時の目標」の箇所を示す。
展開 5分	2-3 「気付いたことを発表しましょう。」		○他人の発表内容で、新たに気付いたことをワークシートに書き加える。	

3 話の受け止め方と、話を引き出す質問の仕方について理解する。(10分)	3-1 「皆さんが気付いたように、話の受け止め方や質問の仕方にはいくつかポイントがあります。まずは、話の受け止め方です。方法は大きく4つあります。1つは『あいづちをうつ』、2つは『驚く』、3つは『言い換える』、4つは『復唱する』です。これらのことこの頭文字を取ると、『あ・お・い・ふく』となります。『あ・お・い・ふく』覚えておきましょう。」 3-2 「次に、話を引き出す質問の仕方についてです。質問には『深める質問』と『広げる質問』の2つの方法があります。」「『と』というとは？ほかには？』という、それぞれ代表的な質問があるの覚えておきましょう。」	○ワークシートにある「あおいふく」と「深める質問、広げる質問」について説明を聞く。 ○ワークシートにある表の「あ・お・い・ふく」などの語句を記入する(線を引く)。	○ワークシートにある「あおいふく」と「深める質問、広げる質問」について説明を聞く。 ○ワークシートにある表の「あ・お・い・ふく」などの語句を記入する(線を引く)。	○ワークシートを裏面にさせ、聴覚と視覚の両方で確認できるようにする。 ○「あ・お・い・ふく」の意味がより実感できるよう、指導者がプリンター表面の例に頼れながら説明する。 ■ワークシートを正確に記入し、重要な語句を記入している。(観察)
4 ペアインタビューの目的と役割を確認する。(3分)	4-1 「では、話の受け止め方と質問の仕方を意識して、ペアインタビューを行ってみましょう。ペアインタビューの目的は、『相手に心地よく話してもらいながら、その人柄や魅力を引き出す』です。役割は①質問する人、②質問に答える人の2つです。」 4-2 「次に、話のテーマをワークシートから選びます。話題は添中で変わっても良いですが、なるべく同じ話題で続けましょう。その際、『あ・お・い・ふく』や『深める・広げる質問』(と)という、ほかには)を意識しましょう。それでは、話題を決めてください。時間は1分です。始めてください。」	○語群の中から、なるべく語が長く続きそうなテーマを選びます。	○ペアインタビューの目的と役割を確認している。(観察)	
5 話の受け止め方と質問の仕方について適切にペアインタビューを行う。(5分+2分) × 2	5-1 「それでは、実際にインタビューをしてみよう。時間は5分間です。始めてください。」	○質問する人は、「あおいふく」を広げる質問、深める質問を使い、インタビューをする。 ●「あおいふく」を積極的に使っている。 ●深めるための具体的な言葉、広げるための具体的な言葉の効果的に使えない。 ●話題を次々に変えてしま	○質問する人は、「あおいふく」を広げる質問、深める質問を使い、インタビューをする。 ●「あおいふく」を積極的に使っている。 ●深めるための具体的な言葉、広げるための具体的な言葉の効果的に使えない。 ●話題を次々に変えてしま	○なるべく少ない話題で取り組ませる。 ○言葉やうまく選べない生徒には、個別に手本を見せる。 ○話題をすぐに変えてしまう生徒には、個別に、「引き出す質問」を具体的に提示する。 ■異なる立場や考えを受け入れながら聞いたり、質問を工夫して多様な情報を集めた

				りしている。 (編集)
	5-2 「インタビューについて振り返りをします。今のインタビューの話を受け止め方と質問の仕方はどうだったか、2人で話し合ってください。時間は2分間です。」 5-3 「次に、(3) 進行の①～④を、役割を入れ替えて行います。時間は8分です。それは、始めてください。」	○「話の受け止め方」と「質問の仕方」について、良かった点やアドバイスを具体的に伝えよう。		
6 話し合いを振り返る。	6-1 『★話し合いの振り返り』の記入をしましょう。話を受け止める態度はどうだったか、話を引き出す質問はできたか、振り返ってください。」	○ワークシートの項目に沿って記入しながら、個人の振り返りをする。 ●「…することができた。」 ●「…した方が良かった。」	■「本時のスキル」を活用して話し合いをすることができたか、振り返っている。(ワークシート)	
7 本時の学習について振り返り、次の時間への見通しをもつ。	7-1 「では最後に、本時の目標が達成できたか振り返りましょう。『振り返ろう』に自己評価を記入してください。」 7-2 「次の時間は、質問の仕方を工夫しながら相手の思いを理解することを学習します。」	○本時の学習を振り返り、ワークシートに評価を記入する。 ●成果と課題を認識する。 ○本時の内容とのつながりについて考える。	■4段階で自己評価している。 (ワークシート)	

模範を示す。また、生徒には自分と違う意見は異なる色でワークシートに記入するように指示する。

- 3-1 ワークシートを穴埋め式にして生徒自身に書き込ませることもできる。
- 3-2 「もやしちゃんとおおいふく、というと、ほかにはは？」まで一緒に覚えてもらい。
- 4-2 ペアインタビューで話題を選ぶときは、話が広がりやすいように質問に答える人に話題を選ぶように指示する。
- 5-1 インタビューの時間は、授業の進度により3分から5分の間で選ぶ。
- 7-2 次の時間、3月5・6時間に体育館が教室でやる学年レクについて話し合うので、何ができるか考えておかせておくと、次の時間が楽になる。

(3) 本時の評価

- ① 「あおいふく」を適切に用いて、ペアインタビューを行っている。
- ② 「深める・広げる質問」(というとは?)を適切に用いて、ペアインタビューを行っている。

(4) 授業のポイント

- 1-1 授業開始時には、もやしちゃんのイラストを黒板上に貼っておく。(あおいふくが重要になるので、必ずカラーコピーすること)
- 1-1 前回の学習を想起するのが困難な生徒には前回のワークシートを参照させる。
- 2-2 二つの例を比べる際、記入するのが困難な生徒にはそれぞれの例文の異なっている箇所には線を引かせ、なぜそこに線を引いたのか理由をワークシートに記入するように指示すると記入しやすくなる。
- 2-3 生徒が発表したものは板書する。教員自身も生徒の発表に対して「受け止めながら聞く」ことで、生徒に

3 第3時 (7時間扱い)

- (1) ねらい
 「本当?」「なぜ?」「いつ?」「いつ?」などの質問に対して、根拠や理由となる内容を答える。
 「本当?」「なぜ?」「いつ?」「いつ?」などと根拠や理由の確かさを確かめながら、相手との考えの一致点を見出す。
 ①意見と根拠の関係を捉える。
 ②相手の意見が出された背景について理解しながら話したり聞いたりする。
- (2) 展開
 必要なもの: ワークシート③ もやしちゃんとかんとかんというイラスト (カラー)
 ・計時用の大きなタイマー

時間	学習内容・活動	教師の働きかけ	生徒の具体的な活動	指導上の留意点
導入 3分	1 前時の学習内容を振り返り、本時の目標を捉える。	「前時は、ペアリングタビュールを通して、話の受け止め方、質問の仕方について、学習しました。それだけ、どうですか? あおいぶくのか? 『あ』は何ですか? ... (一つ一つ確認)」 1-2 「今日の目標は、『質問の仕方』を工夫しながら、相手の意見を理解することです。今日は『意見対立解消のためのスキル』を学習します。今日も言葉ができてきます。」	○「あおいぶく」「深める質問」「広げる質問」を思い出して質問に答える。 ○板書された目標を見て確認している。 ○「本時のスキル」を確認する。	□指導上の留意点 ■評価の観点・方法 ■前時の学習内容を思い出して、質問に答えている。(観察) □ワークシート②を配布する。
展開 40分	2 良い話し合いに必要なことを考える。(15分)	2-1 「初めに、例題を使って意見対立の解消に必要なことを考えてみましょう。まず、ワークシートの裏にある①と②の例を比較してみましょう。では、○○さんと○○さん、読んでみてください。」 2-2 「①と②を比較し、対立意見の解消法について気付いたことをワークシートに記入しましょう。」 2-3 「気付いたことを発表しましょう。」	○ワークシート表面の例題を見る。 ○①と②を比較し、意見対立の解消法について気付いたことをワークシートに記入する。 ○「①は自分の意見だけで相手の意見を聞いていない。」 ○「②は理由の共通点を見つけて、別の案を提案している。」 ○他者の発表で、新たに気付いたことを発表し加える。	4 意見の対立を解消する際に、ペアで話し合う。(15分)
まとめ 6分	3 意見の対立を解消するための話し合いについて理解する。(10分)	3-1 「みなさんが気付いたように、意見対立を解消するためにはいくつかのポイントがあります。まずは、相手の深い思いや意見を聞き出し、受け止めることが必要です。思いや意見を聞き出し受け止める方法は、『ほ・な・い・こ』と覚えましょう。『ほ』は『本当?』と問いかけ、『な』は『なぜ?』と『いつ?』と問いかけ、『い』は『いつ?』と	○教師の説明を聞いている。 ○ワークシート裏面にある表の「本当?」や「なぜ?」等の語句に線を引く。 ○『ほ・な・い・こ』のイラストとワークシートを比較しながら理解しようとしている。 ○『あおいぶく』の他に、『ほ・な・い・こ』と問いかけ、『いつ?』と	5 話し合いを振り返る。(3分)

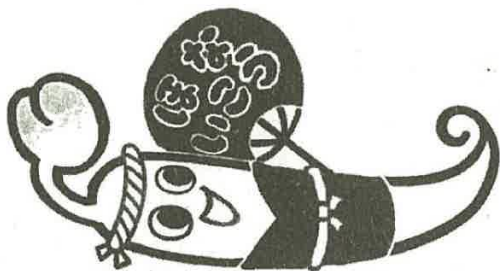
問いかけること。これは『絶対?』や『必ず?』という言葉でも構いません。『こう』は『どう?』や『いつ?』や『いつ?』と意見を受け止め提案することです。これららの頭文字をとると、『ほ・な・い・こ』となりますね。」	3-2 「次に意見を一致させる方法です。意見を一致させるには、互いの共通点や大切な思いを理解し、積み重ねていくことが必要です。そのために、『ほ・な・い・こ』を繰り返し使って相手の思いや意見を聞き出し、共通できる点や大切にしている思いを見つけてみましょう。」	4-1 「では、意見の対立解消を図るペアワークをしてみましょう。3月に5・6時間目、教室または体育館で学年レクをすることになりました。まず、個人でしたいことを考え、意見の背景にある理由や思いを使って『ほ・な・い・こ』をかけて意見の背景にある思いをたくさん考えてみてください。」	4-2 「隣の人とペアを組んで、学年レクでやりたいことについて、『ほ・な・い・こ』を使いながら、『意見の背景にある思いを一致させること』を意識して、話し合ってみましょう。一致させるためには、相手の意見を広げたり深めたりすることが大切です。『ほ・な・い・こ』を使って、相手の意見を広げたり深めたりしてください。たぐさんの一致点を見つけてから、ペアで意見をまとめるところを目指しましょう。」	5-1 「★話し合いの振り返り」の記入をしましょう。まずは『意見対立の解消法』について、次に『話題に対する考えの広がり・深まり』について振り返りましょう。気付いたことや興味深いと思ったことと書きましょう。」
<p>問いかけること。これは『絶対?』や『必ず?』という言葉でも構いません。『こう』は『どう?』や『いつ?』や『いつ?』と意見を受け止め提案することです。これららの頭文字をとると、『ほ・な・い・こ』となりますね。」</p>	<p>3-2 「次に意見を一致させる方法です。意見を一致させるには、互いの共通点や大切な思いを理解し、積み重ねていくことが必要です。そのために、『ほ・な・い・こ』を繰り返し使って相手の思いや意見を聞き出し、共通できる点や大切にしている思いを見つけてみましょう。」</p>	<p>4-1 「では、意見の対立解消を図るペアワークをしてみましょう。3月に5・6時間目、教室または体育館で学年レクをすることになりました。まず、個人でしたいことを考え、意見の背景にある理由や思いを使って『ほ・な・い・こ』をかけて意見の背景にある思いをたくさん考えてみてください。」</p>	<p>4-2 「隣の人とペアを組んで、学年レクでやりたいことについて、『ほ・な・い・こ』を使いながら、『意見の背景にある思いを一致させること』を意識して、話し合ってみましょう。一致させるためには、相手の意見を広げたり深めたりすることが大切です。『ほ・な・い・こ』を使って、相手の意見を広げたり深めたりしてください。たぐさんの一致点を見つけてから、ペアで意見をまとめるところを目指しましょう。」</p>	<p>5-1 「★話し合いの振り返り」の記入をしましょう。まずは『意見対立の解消法』について、次に『話題に対する考えの広がり・深まり』について振り返りましょう。気付いたことや興味深いと思ったことと書きましょう。」</p>
<p>4 意見の対立を解消する際に、ペアで話し合う。(15分)</p>	<p>○教師の説明を聞いている。 ○ワークシート裏面にある表の「...」という点については「かかると」等の語句に線を引く。 ○相手の意見を裏付ける理由や思いを引き出し、受容していることに気付く。</p>	<p>○プリント裏面2 (1)と(2)に取り組み。 ○ワークシートの所定の場所に、自分の意見を記入する。 ●自分の意見の背後にある思いを、「本当?」や「なぜ?」を使用し、自問自答している。 ●「いつ?」と問いかけることに苦戦している。</p>	<p>○プリント裏面2 (3)に取り組み。(学年レクでやりたいことと理由や思いを確認しながら一致点を探す。) ○互いに「ほ・な・い・こ」を活用しながら、相手の意見を広げ、深める。 ●互いの意見の背景にある思いを知り、納得させるために話し合っている。 ●相手の意見の背景にある深い思いを知り、驚いている。</p>	<p>○本時の学習を振り返り、ワークシートに評価を記入する。 ●「いつ?」は使いづらかった。 ●「なぜ?」は使いやすかった。 ●「質問すること、相手の深</p>



6-2 次の時間、「この町（学区）に住む人々たちを笑顔にする、ボランティア活動」について話し合うので、何が
できるか考えておかせておくと、次の時間が楽になる。

○もやしちゃんとはなないこう！

共感的に聴くこと（青い服）を受け継ぎつつ、今回は、共感+論理的に聴く（青いはっぴを着用し、手にははなないこうのうちわを袴つ）ことを示している。



論理的に広げ・深める

- ほんとは？
 - なぜ？
 - いつもそう？
- 相手を受け止めたうえで、対案を示して、相手の考えを広げる
- こうすれば？

<p>6 本時の学習について振り返り、次の時間への見通しをもつ。 (5分)</p>	<p>6-1「では最後に、本時の目標が達成できたか振り返りましょう。『振り返ろう』に自己評価を記入してください。」</p> <p>6-2「次の時間は、話し合いの出発点にある『話し合いの材料を、目的に応じて効果的に集める。』です。次の時間に備えてグループの中で司会や記録等の役割を決めてください。」</p>	<p>い考えを知ることができた。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「質問をすることで、共通点を探ることができると分かった。」 <p>○本時の学習を振り返り、目標に相対して自己評価する。</p> <p>○話し合いを行う際には『話し合いの条件』があることを知る。 ○グループの中で話し合い活動の際の役割分担を行う。</p>	<p>■4段階で自己評価している。 (ワークシート)</p> <p>□1や2に○を付けた生徒には何が不十分だったのか想起させる声がけを全体に向けて行う。」</p>
---	--	---	---

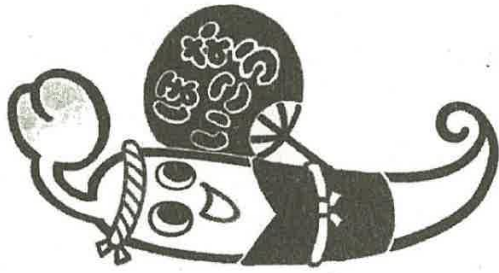
(3) 本時の評価

- ①「意見と根拠の関係を探る」について
 - 「本当？」「なぜ？」「いつも？」等の質問に対して、根拠や理由となる内容を答えている。
 - ②「相手の意見が出された背景について理解しながら話したり聞いたりする」について
 - 「ほ・な・い・こう」を使って、相手の意見を広げたり深めたりしようとしている。
 - 「ほ・な・い・こう」を活用して、相互の一致点を見出している。
- (4) 授業のポイント
 - 1-1 授業開始前にプリントを配布しておくこと、時間節約になる。
 - 1-1 授業開始時には、もやしちゃんのイラストを黒板上に貼っておく。(あおいふくが重要になるので、必ずカラーコピーすること。)
 - 1-1 前回の学習を想起することが困難な生徒には、第2時で使ったワークシート②を参照させる。
 - 2-2 例題を比較する際、記入することが困難な生徒にはそれぞれの例文の異なる箇所を引かせ、なぜそこに線を引いたのか理由をワークシートに記入するように指示する。このことで、生徒は記入しやすくなる。(網掛けに注目させる)
 - 3-2 「意見を一致させるには、互いの共通点や大切な思いを理解し、積み重ねていく」とは・・・家族旅行で「北海道だ」、「愛知だ」と言い合っても、解決にはならず、話し合いは平行線のままだが、「なぜ北海道がいいのか。それは、海があり、おいしいものがあるからだ。」「なぜ愛知がいいのか。それは、海があり、好きな歴史上の人物がいるからだ。」と、それぞれの主張の裏にある思い（この場合は理由）がわかれば、「海」があり、「歴史」があり、「おいしいもの」がある場所を探していくということ。新たな解決策を生み出し、旅行の行先という課題に対して、意見を一致させることができるとのこと。そのためには、「ほ・な・い・こう」を使って、相手の主張の裏にある思いを引き出すことが重要になる。
 - 4-1 ふきだしや枠が足りない生徒にはふきだし等を自分で追加させて書かせる。これにより、生徒はさらに自分の考えを広げ、深めることが可能となる。
 - 4-2 ワークシート③裏面の例題を想起させ、一致点を探る際に「あ・お・い・ふく」「あいつち」「応答」「言い換え」「復唱」も使用可能であることを伝え、相手の意見をより受け止めやすくなる。
 - 4-2 意見の一致点を探ることが困難なペアには、ホワイトボードやA3用紙を配布して視覚化させることで、一致点を探しやすくなる。
 - 6-2 グループで役割決めを行う際、学習した「もやしちゃんとはなないこう」を想起させ、役割（司会・記録・計時・発表）を決めさせる。また、国語における話し合いグループが決まっていけない場合は、このまでに決定しておくことと後の時間がスムーズに行える。

6-2 次の時間、「この町（学区）に住む人たちを笑顔にする、ボランティア活動」について話し合うので、何が
できるか考えておかせておくと、次の時間が楽になる。

○もやしちゃんとはほないこう！

共感的に聴くこと（青い服）を受け継ぎつつ、今回は、共感+論理的 に聴く（青いはっぴを着用し、手
にはほないこうのうちわを持つ）ことを示している。



論理的に広げ・深める

○ほんとは？

○なぜ？

○いつもそう？

相手を受け止めたうえで、対
案を示して、相手の考えを広
げる

○こうすれば？

6 本時の学習 について振り返り 返り、次の時間 への見通しを もつ。 (5分)	6-1「では最後に、本時の目標 が達成できたか振り返りま しょう。『振り返ろう』に自己 評価を記入してください。』	い考えを知ることができた。」 ●「質問をすること、共通点 を探すとできると分かっ た。」
6-2「次の時間は、話合いの出 発点にある『話合いの材料を、 目的に応じて効果的に集め る。』です。次の時間に備えて グループの中で司会や記録等 の役割を決めてください。」	○本時の学習を振り返り、目 標に相対して自己評価する。 (ワークシート)	■4段階で自己評価 している。 □1や2に○を付け た生徒には何が不十 分だったのか想起さ せる声がけを全体に 向けて行う。」
	○話合いを行う際には『話合 いの条件』があることを知る。 ○グループの中で話合い活動 の際の役割分担を行う。	

(3) 本時の評価

- ① 「意見と根拠の関係を捉える」について
「本当？」「なぜ？」「いつも？」等の質問に対して、根拠や理由となる内容を答えている。
 - ② 「相手の意見が出された背景について理解しながら話したり聞いたりする」について
「ほ・な・い・こう」を使って、相手の意見を広げたり深めたりしようとしている。
「ほ・な・い・こう」を活用して、相互の一致点を見出している。
- (4) 授業のポイント
- 1-1 授業開始前にプリントを配布しておく、時間節約になる。
 - 1-1 授業開始時には、もやしちゃんのイラストを黒板上に貼っておく。(あおいふくが重要になるので、必ず
カラーコピーすること。)
 - 1-1 前回の学習を想起することが困難な生徒には、第2時で使用したワークシート②参照させる。
 - 2-2 例題を比較する際、記入することが困難な生徒にはそれぞれの例文の異なる箇所を線を引きかせ、な
ぜそこに線を引き出したのか理由をワークシートに記入するように指示する。このことで、生徒は記入しやす
くなる。(網掛けに注目させる)
 - 3-2 「意見を一致させるには、互いの共通点や大切な思いを理解し、積み重ねていく」とは・・・
家族旅行で「北海道だ」、「愛知だ」と言い合っても、解決にはならず、話合いは平行線のままだが、「なぜ
北海道がいいのか。それは、海があり、おいしいものがあるからだ。」「なぜ愛知がいいのか。それは、海が
あり、好きな歴史上の人物がいるからだ。」と、それぞれの主張の裏にある思い(この場合は理由)がわか
れば、「海」があり、「歴史」があり、「おいしいもの」がある場所を探していくこと、新たな解決策を生
み出し、旅行の行先という課題に対して、意見を一致させることができるということ。そのためには、「ほ・
な・い・こう」を使って、相手の主張の裏にある思いを引き出すことが重要になる。
 - 4-1 ふきだしや枠が足りない生徒にはふきだし等を自分で追加させて書かせる。これにより、生徒はさらに自
分の考えを広げ、深めることが可能となる。
 - 4-2 ワークシート③表面の例題を想起させ、一致点を探す際に「あ・お・い・ふく」(「あいづち」)「応答」「言い
換え」(「復唱」)も使用可能であることを伝えると、相手の意見をより受け止めやすくなる。
 - 4-2 意見の一致点を探すことが困難なペアには、ホワイトボードやA3用紙を配布して視覚化させることで、
一致点を探しやすくなる。
 - 6-2 グループで役割決めを行う際、学習した「もやしちゃんとおおいふく」を想起させ、役割(司会・記録・計
時・発表)を決めさせる。また、国語における話合いグループが決まっていけない場合は、このまでに決定し
ておくこと後の時間がスムーズに行える。

4 第4時 (7時間扱い)

- (1) ねらい
付箋に示された意見の根拠や類似点を捉えている。
質問したり発言を促したりしながら相手の考えをとらえ、自分の考えを広げている。
①話し合いのアイデアを、目的に応じて効果的に集める。

- (2) 展開
必要なもの：ワークシート④・グループ分の付箋 (7.5cm X 5cm 4色)・練習ワーク用紙 (B4)
二人で一枚使用・模造紙 (半分) 一式、計時用の大きいタイマー・もやちんイラ
スト二種・ICT機器 (パワーポイント《以下PP》) を掲示する装置一式)

時間	学習内容・活動	教師の働きかけ	生徒の活動	指導上の留意点
導入 2分	1 これまでの学習を振り返り、本時の目標を捉える。(2分)	1-1 「前時は、『質問の仕方を探しなすから、相手の思いを理する』ことを学習しました。どういうものだったか覚えていますか？ほほほほほほ。今日のは、『(一つ一つ確認)』。今日は、『アイデアの集め方について学びます。』」	○生徒の活動 ●予想される反応 ○「『あおいふく』『深める質問』『広げる質問』を思い出して質問に答える。	○指導上の留意点 ■評価の観点・方法 ○授業前の準備をしておく。 ○机を四人グループワークシートを配布しておく。 ■これまでの学習内容を思い出し、質問に答えている。(観察)
展開 43分	2 アイディアを多く出して話し合いの方法を理解する。(5分)	1-2 「今日の目標は、『話し合いの材料を、目的に応じて効果的に集める。』です。今日身に付けるスキルは、『ブレインストーミング』と『グループング』です。」 2-1 「まず、『ブレインストーミング』とは頭脳に嵐を起こして、自由に自分のアイデアを出していくことです。その際に出すアイデアは、①質より量 ②批判しない③思いのまま自由に出す④連想する、の四つです。この中で、特に『連想』が、アイデアを出すときに重要です。」	○板書された目標を見て確認している。 ○「本時のスキル」を確認し記入する。(線を引く)	○本時のワークシートを配布する。(練習プリントも配布) ○「本時の目標」の箇所を示す。 ○PPが使用できる環境を用意する。それが難しい場合は、黒板に模造紙を貼って付箋での実技を見せながら説明する。 ■ワークシートに線を引いたり、メモをしたりしながら聞いている。(観察、ワークシート)

3 話し合いにおける役割の内容と、基本的な進行形について理解する。(2分)	3-1 「では、早速練習しましょう。進め方を確認しています。目標は『学年レクリエーションの内容を考え、アイデアを出せるだけ多く挙げます。進行は次のようにします。①目的と役割を確認する。②各自個人で考え、アイデアを付箋に書き込む。③理由を説明しながら、アイデアを台紙に貼っていく。④話し合いながらアイデアを増やす。最後に、ルールを確認します。今日のルールは、プレスト4つ(3つ)のルールです。」	○ワークシート見ながら目的や進行を確認している。 ●「付箋に理由まで書くか」 ●「①質より量 ②批判しない③思いのまま自由になる④連想する」のルールだ。	○前提条件を確認する。 ○③と④をくっつけて、「のっかり」後付けOKとして、3つのルールにすることもある。
4 「ブレインストーミング」と「グループング」の練習をする。(15分)	4-1 「それでは、まず自分の考えを絞り出しましょう！自分の考えをまず付箋に理由と一緒に書き留めましょう。」(3分)	○道具を準備する。 ○個人で考え、アイデアを付箋に書く。 ○タイマーを黒板に付ける。	○2回分の付箋と模造紙とを、各グループに配る。 ○タイマーを黒板に付ける。
	4-2 「それでは、練習課題について、それぞれ時間を意識しながら、ペアで話し合いを始めてみましょう。」 「一通りアイデアを出したら、そこから連想して、新しいアイデアを追加しましょう。」(4分)	○2人ずつの2グループで話し合う。 ○付箋に書いたアイデアを示し合い、さらに、ひらめきを言葉にしながらいアイデアを集める。 ●すでに出された意見の一部を用いて、新たに意見を出している。 ●アイデアを貼っていくとき、似たもの同士を無意識に近くに貼っている。 ●意見が出ずに、沈黙する。	○すべての人が司会者の意識で取り組むように生徒に促す。 ○アイデアが少なめなグループでは、机間指導で、出されたものをともに、連想されるアイデアを例示していく。 ■「あおいふく」を実践している。(観察) ■話し合いの中で付箋にアイデアを書いている。(観察) ■新しいアイデアを出している。(観察)
	4-3 「出し切ったら、次はグループングして、見出しをつけましょう。」まともな方、ラベルのつけ方をPPを使用し詳しく説明する。(5分)	○なるべく小さなグループにわけている。 ○理由に着目してグループを分けている。	○次に使用する模造紙を配布する。
	4-4 「グループ分けとラベル付けを行いましょう。」(3分)		

<p>5 「ブレッシング」トミーニングと「アイデア」の『見える化』を効果的に用いて話合う。(21分)</p>	<p>5-1 「それでは本題です。今日から皆さんは3時間かけて『この町に住む人たちが笑顔にする活動』について話し合い、最後にグループとして提案します。ここでの『町』の範囲は、中学校の学区とします。目的は、『この町に住む多くの人たちが笑顔になる』ことです。そして、話し合った後『私たちが、納得して取り組もうと思える』ことです。役割は、司会・記録・計時、発表の4つです。司会の役割は、…です。記録の役割は、…です。計時の役割は、…です。発表の役割は、…です。前の時間で決めた役割を確認しましょう。ルールや進行は練習と同じです。時間は…分です。それでは話し合いを始めましょう。』(1分)</p>	<p>5-2 「それでは、まず自分の考えを絞り出しましょう。」「自分の考えをまず付箋に理由と一緒に書き溜めましょう。』(3分)</p>	<p>5-3 「司会者から順番に理由と一緒にアイデアを出していきましょう。」「一通りアイデアを出したら、そこから連想して、新しいアイデアを追加しましょう。』(10分)</p>	<p>5-4 「出し切ったら、次はグループで話し合ってください。理由に注目してグループを分けています。』(6分)</p>	<p>□使用する付箋と模造紙とを新しくさせる。 □それぞれの役割を挙手させて確認する。</p>
	<p>□使用している付箋と模造紙とを新しくさせる。 □それぞれの役割を挙手させて確認する。</p>	<p>○個人で考え、アイデアを付箋に書く</p>	<p>○4人のグループで、自分の役割を意識しながら話し合う。 ○付箋に書いたアイデアを示し合い、さらに、ひらめきを言葉にしなが、アイデアを集める。 ●すでに出された意見の1節を用いて、新たに意見を出している。 ●アイデアを貼っていくとき、似たもの同士を無意識に近くに貼っている。 ○なるべく小さなグループにわけている。 ○理由に着目してグループを分けている。</p>	<p>■「もやしのルール」を実践している。(観察) ■話し合いの中で付箋にアイデアを書いている。(観察) ■新しいアイデアを出している。(観察) □進行管理は様子見ながら声をかけていく。</p>	

<p>5-5 「発表者は、話し合った結果を話の広がり・深まりとともに発表してください。時間は1分です。』(1分)</p>	<p>6-1 『★話し合いの振り返り』の記入をしましょう。』</p>	<p>6-2 「グループでそれぞれの話し合い方について振り返りましょう。』</p>	<p>6-3 「グループでの話し合いをもとに、気付いたことを書き足しましょう。』</p>	<p>7-1 「では最後に、本時の目標が達成できたか振り返りましょう。『振り返ろう』に自己評価を記入してください。』</p>	<p>7-2 「次の時間は、本時を踏まえて、意見を絞る方法を学習します。』</p>	<p>○発表者は話し合った内容を「話し合いの初めは……。その後、話し合いの中で……。そして、話し合いの結果……。」というようになりまし。』と発表する。 ●グループによって、発表の仕方がわからない生徒がいる。</p>
<p>6 話し合いを振り返る。(4分)</p>	<p>○ワークシートの項目に沿って個人の振り返りをする。 ●「…することができた。」「…した方が良かった。』</p>	<p>○自己評価とそう考えた理由を簡潔に伝え合う。 ○良かった点やアドバイスを伝え合う。 ○共有した後、再び個人の振り返りをする。</p>	<p>○本時の学習を振り返り、ワークシートに評価を記入する。 ●成果と課題とを認識する。</p>	<p>○4段階で自己評価している。(ワークシート)</p>	<p>○使用した模造紙は、授業後に記録者が提出する。次の時間も使用する。</p>	<p>□発表の仕方に戸惑っているグループには、個別に発表の形を再提示す。</p>
<p>7 本時の学習について振り返り、次時間への見通しをもつ。(1分)</p>						

(3) 本時の評価

①適切に付箋を活用し、できるだけ多くアイデアを出している。

(4) 授業のポイント

1-1 授業開始前にプリント・模造紙を除く使用する道具を配布しておく。机も4人体制にして、体を前に向けて状態を授業を開始する。図書室など特別教室の利用も有効である。
前時まで学んだ「もやしちゃん」「あおいふく」「ほないこう」を意識し、記憶に刻めるように、提示し「見える化」しておく。

1-2 「さて、皆さんは、学級活動、委員会や部活動で、アイデアを出し合う時どのような話し合いを進めていきますか？今日は実際にアイデアを出し合う話し合いの学習をします。」等の呼びかけをし、実際の学校生活での話し合いの場面を思い出させ、日常の話し合いに生かす学習をするのだという意識を強く持たせて臨ませるようにする。

これまでに学習した内容を振り返りながら本時の目標を把握させる。
「ブレッシング」と「グループミニング」について、生徒は初めて知る言葉であり、学習意欲が高まるはずである。

他の人のアイデアから、アイデアを広げられること、また、一見は思いついていないようなアイデアが、実はアイデアを広げるきっかけとなることを、話し合いの前に伝える。

- (1) ねらい
 ペイオフマトリクスを活用して、複数の意見を一定の評価項目に基づいて比較する。
 理由を示しながら意見を比較することを通して、互いの発言を生かし、自分の考えをより確かなものにする。
 ①ペイオフマトリクスを効果的に用いて、出されたアイデアに対して根拠をもって意見を述べながら、自分の考えを広げている。

- (2) 展開
 必要なもの・ワークシート・マトリクス練習用プリント (アイディア印刷済み)
 ・前回使用した模造紙・マトリクス用模造紙 (2軸記入済・模造紙 112 大)
 ・付箋・計時用の大きいタイマー・もやしちゃんイラスト二種・ICT機器 (パワーポイント《以下 P P》) を掲示する装置一式

時間	学習内容・活動	教師の働きかけ	生徒の活動	指導上の留意点
導入	1 これまでの学習を振り返り、本時の目標を捉える。(2分)	1-1 「前の時間に『この町に住む人々たちを笑顔にする活動を考えよう』のアイデアをブレインストーミングして、その後グループビンゴしました。それぞれ、どういふものだったか覚えていますか？今日のは、グループとしてのアイディアのまとめ方について学びます。」 1-2 「今日の目標は、『意見同士を比較して、自分の考えを広げる』です。今日身に付けたスキルは『ペイオフマトリクス (+ひと工夫)』です。」	● 予想される反応 ○ 「グループビンゴ」と「ラベルリング」とを思い出しで質問に答える。	□ 指導上の留意点 ■ 評価の観点・方法 □ 授業前の準備をしておく。 □ 机を四人グループにしておく。本時のワークシートを配布しておく。
	2 ペイオフマトリクスの使い方を理解する。(5分)	2-1 「ペイオフマトリクスとは二つの軸の上に付箋をそれぞれ置き、その優先順位を考えるための図表です。最初に、例を挙げてやってみるので、次に自分で練習してみてください。」	○ 用意されたモニターを見ながら、P P によるペイオフマトリクスの取り組み方の説明を聞く。 ○ ワークシートを見ながら、ペイオフマトリクスの取り組み方の枠内に線を引き、それぞれをメモしたります。	□ 「本時の目標」の箇所を示す。
	6-2 丁寧な振り返りの例として挙げたが、時間によっては省略する。 6-3 丁寧な振り返りの例として挙げたが、時間によっては省略する。		● 「ペイオフマトリクスの進め方はこうするのか。」 ● 「判断基準が大丈夫だ。」	□ P P が使用できる装置を用意する。それが難しい場合は、黒板に模造紙を貼って、例を示す。 □ (全員の) 納得を目指す後討 (議論) の中で、それぞれの候補の位置が変化することを目玉にする。

2-1 プレゼンストレーミングの説明は、P P 等 ICT 機器を用いて視覚的に説明するほうが、直感的理解ができ、有効である。黒板での実演もよいが、繰り返し使用できる点で ICT 機器の使用が勝る。時間短縮にも貢献する。

2-2 情報過多になるため、まずブレンドの流れと前半の発想法を重点的に説明する。後半のグループビンゴについては、練習の後半に、追加で説明する。

3 「ブレインストレーミング」と「グループビンゴ」の練習はペアで行う。そのため、役割は意識しないでもよい。

4-1 グループは練習のワークはペアで、本番のワークは 4 人で行う。付箋は、4 色使用し、4 人別色にする。どの色にするかは、教員指定やアイブブレスを兼ねて生徒に選べる方法がある。いずれにしても時間のかわらぬようにする。

4-2 話し合いはペアで行う。人数によって、3 人班になることもある。少人数のため役割分担はしない。課題 1 ではできなかったことも課題 2 で慣れてできるようになることを念頭に入れながら紹介しすぎないように気を付けて机間指導をする。

4-3 後で実行に移しやすいという考えから、今回は理由に着目したグループビンゴやラベル付けにチャレンジさせる。グループビンゴとラベル付けには、ある程度の習熟が必要であることから、本実践では理由でのグループビンゴの出来栄は問わず、各人が挑戦・体験できればよしとする。ラベル付けは、分担して各人で一つは取り組ませる。

5-1 進行管理は各グループに任せ、介入しすぎないように気を付けて机間指導をするが、時間管理については、声掛けしていく。

5-5 話し合った結果をグループ内で発表する際、発表の仕方がわからない生徒も出てくる。その場合は、グループ、一グループ指導していく。

6-1 本番でのブレンドの内容が、次第に影響していくため、十分な発散の時間をとらせたい。そのため、ICT 機器を使用し説明の効率化を図るとともに、振り返りの時間を短縮もしくは自宅学習にする方法も考えられる。

6-2 丁寧な振り返りの例として挙げたが、時間によっては省略する。
6-3 丁寧な振り返りの例として挙げたが、時間によっては省略する。

3 ペイオフママトリクスの使い方を練習する。(16分)	3-1「練習課題『学年レクの内容を考えよう』について、練習用に6つ(4つ)のアイデアを先生が選びました。それぞれ『効果が大きい・小さい』『簡単にできる・難しい』という二つの軸の上に位置決めをして、記号を書きましよう。(3分)	○ペイオフママトリクス上に記号を記入する。 ○練習用ペイオフ用紙二人で一枚配布する。 ○判断基準は、いろいろあるが、今回は代表的なものを使用することを押さえる。	○タイムマーを黒板に付ける。 ○練習用ペイオフ用紙二人で一枚配布する。
	3-2「それでは、隣同士でペアになり、アイデアの位置決めをしましょう。」 3-3「ペアで『なぜ、その付箋をここに置いたのか』理由を発表し合いましよう。」 「ペイオフママトリクス完成後に時間が余ったら、自分のプリントに人の意見を聞いて、自分の考えが変化したことを色ペンで書き足したり、アイデアを修正したりしてください。(4分)	○練習用ペイオフを二人の間に置き、二人の名前を記入。 ●結果だけが発表しない生徒がいる。 ○発表を聞いて、記号の位置を二人で相談しながら決めていく。 ○最後まで決めきれない同率一位や二位も今回は認められる。	○発表は優先順位の結果よりも「付箋をなぜその場所に置いたのか」に重点を置くようにアドバイスする。
	3-4「もう一つやるのがありますが、この話合いの目的は、単に順位を決めることではありません。よいよい考えを皆で作りに上げるためにやっているのです。そこで、位置決めをして、それぞれのアイデアには、必ず『ひと工夫』を加えて改善し、右上の場所に引き上げてみましょう。例えば……。(5分)	○モニターを見ながら、P Pによるひと工夫の取り組み方を説明を聞く。 ●「ペイオフママトリクスをして終わりではないんだ。」 ●「こうすれば、より良い案を考えられるんだ。」	○PPPが使用できる環境を用意する。それが難しい場合は、黒板に模造紙を貼って、例を示す。
	3-5「それでは、ひと工夫を加えて、アイデアをより良いものに改善してみよう(4分)	○それぞれのアイデアを改善する。	
4 合意形成に向けてペイオフママトリクスを適切に活用する。(22分)	4-1「次は、本題です。これまで話し合ってきた『この町に住む人たちを笑顔にする活動』について、ベスト1を決めます。目的は、『この町に住む多くの人が笑顔になる』。そして『私たちが納得して取り組もうと思える』アイデアを生み出すことです。』 条件は「冬休みの中の一日、クラス全員で行うことです」	○道具を準備する。	○プレレンストレーニングの模造紙を準備

役割は、前回と同じです。(1分)	4-2「今から、前時までに出席した意見から、候補となるアイデアの付箋を各自2枚選びます。ただし、各グループから少なくとも1枚は選んでください。」 「選び終わったグループは各自でペイオフママトリクスをしてみよう。(3分)	○各人付箋を2枚ずつ選び出す。(計8枚) ●選び出すのに時間がかかってしまう 【観察・付箋】 ○あくまでも候補なので、あまり神経質にならないうように指示する。 ■8枚の候補を選んでいる。	○「おやおもしろい」「ほなほな」「あおひく」「ほなほな」を意図するようにつまみ。 ■取柄を明確にしなから付箋を配置したり、また配置し直したりしている。【観察・ママトリクス表】
4-3「次に、ペイオフママトリクスを活用して、グループとしての意見を決めます。意見を置くときや動かすときは、必ず理由を述べるようにします。それでは、8枚の付箋の位置を決めてください。(8分)	○4人のグループで、自分の役割を意識しながら話し合う。 ○意見交換をしながら順に付箋をママトリクス上に置く。 ●話し合いが十分になされず、付箋の位置が決定してしまふ。 ●「ほなほな」を使って話し合っている。	○「もやしちゃん」「あおひく」「ほなほな」を意図するようにつまみ。 ■取柄を明確にしなから付箋を配置したり、また配置し直したりしている。【観察・ママトリクス表】	○机間指導しながらどんな工夫があれば意見が右上に移っていくかを考えよう。アドバイスをする。 ○発表役に意見の変化、話合いの推移を意識させる。
4-4 (話合いの中盤で)「できあがったグループは『他の意見が右上のグループに入り込めるように』『また、ベスト3がよりよくなるように』もう一工夫を加えてみましょう。『もう一工夫』によって位置が変化した場合は、付箋を動かしてください。(5分)	「もう一工夫」によって、意見が改善すること ●「もう一工夫」することでアイデアがよりよくなることを実感する。	○最終的に決まったベスト1をワークシートに記入している。	○「広げる質問」「深める質問」を意識するように促す。
4-5 (話合いの終盤で)「付箋の位置が決定したら、右上のグループの中からベスト1を決めます。その際はメンバーが十分に意見を言えるように司会が意見を引き出すための質問を積極的に使ってみましょう。(4分)	○最終的に決まったベスト1をワークシートに記入している。	○「広げる質問」「深める質問」を意識するように促す。	○発表役に意見の変化、話合いの推移を意識させる。
4-6「それぞれのグループに発表(確認)してもらいます。『もう一工夫』で意見がどのように変わったのかにも触れてください。(1分)	○1～2グループが発表する。 ●「初めは……だったのが、……という意見を加えることによって……に変わり、最終的には……という結果	○発表の良い点を取り上げて評価をする。	○発表の良い点を取り上げて評価をする。

ま と め	5-1 「★『話し合いの振り返り』の記入をしましょう。」	になりました。」 ○ワークシートの項目に沿って個人の振り返りをす る。	■「本時のスキル」を 活用して話し合いをす ることができたか、 振り返っている。(ワ ークシート)
5 分	6-1「では最後に、本時の目標が達 成できたか振り返りましょう。 『振り返ろう』に自己評価を記入 してください。」 6-2「今日は、ペイオフマトリク スを使って、多数決やじゃんけん 以外の決め方で、より納得度の高 まる合意形成の方法について学 びました。」 「次の時間は、もうひとランク、 アイデアの質と、納得度を上げ る方法を学習します。」	○本時の学習を振り返り、 ワークシートに記入する。 ●「…することができた。」 ●「…した方が良かった。」 ○次の時間と本時の内容と のつながりについて考え る。	■ 4段階で自己評価 をしている。(ワーク シート) □ 使用した模造紙 は、授業後に記録者 が提出する。

(3) 本時の評価

①ペイオフマトリクスを効果的に用いて、出されたアイデアに対して根拠をもって意見を述べながら、自分の考えを広げている。

(4) 授業のポイント

- 1-1 授業開始前に大きな模造紙を縦く使用するプリントや道具を配布しておく。机も4人体制にして、体を前に向けた状態で授業を開始する。図書室など特別教室の利用も有効である。
前時まで学んだ「もやちゃん」「あおいふく」「ほないこう」を意識し、記憶に刻めるように、提示し「見える化」しておく。
- 1-1 これまでの学習を振り返るときに、想起するのが困難な生徒には、既習のワークシートを参照させる。
- 2-1 パワーポイントなどのICT機器を用いると、テンポよく進められる。繰り返して説明もできる。もし実演を示すときは、ワークシートに記載しているアイデア以外の例を挙げる。また、例を示すための模造紙(2軸印字済)やアイデアカードには裏面にマグネットを貼っておく。
- 2-1 ペイオフマトリクスの手法を説明するとき、利点をはっきり示す。
《例：ただ簡単か簡単でないかではなく、「とても簡単」や、「少し簡単」など色々な違いが明確になり、細かく比較できる。》
- 2-1 ペイオフマトリクスを使用する背景を示す。
《例：わかりやすく、納得度の高い合意形成を行うためのツールとしてペイオフマトリクスを使う。》
- 3-1 練習で取り上げるアイデアの数は、生徒の状況に合わせて4つから6つまでの間で選ぶ。(4つでも十分練習になる。④・⑤・⑥・⑦のように並び方は指導者の好みでよい。)
練習として割り切り、別紙を使わず、プリントにそのまま書き行うと、時間節約になる。
- 3-2 練習は、意見の相違が生まれつつも、意見交換がしやすいペアで行う。
- 3-3 付箋を置く位置だけではなく、「なぜ付箋をその位置に置くのか」という理由を話し合わせる。
- 3-3 ペアで考えを共有する時間は3～5分程度。
もやちゃん(特に進行)を確認するに、PPを使用してもよいが、ここはプリントの説明で事足りる。
- 4-1 練習はカードが最初から用意してあるが、活用はカードを選ぶ段階から始めることを意識させる。
- 4-2 候補の付箋を選ぶのに時間をかけすぎないようにする。

・例：まず、司会者から時計回りに、一枚ずつ選び右手に持つ。こんどは4番目から逆に一枚ずつ選び左手に持つ。

- ・面白いもの、変わっている等基準を提供する。
- ・時間があればペイオフを決める際、グループビンゴから代表を選ぶパターンのほかに、出たアイデアをすべてペイオフにかける方法や、出たアイデアから直感的に数枚選び、それをペイオフにかけるなどいろいろなパターンがあることを紹介したい。

4-4 話し合いの中で、「もう工夫」をするように投げかける。
付箋をマトリクス表に貼れば終わりではなく、ブラッシュアップするための「もう工夫」を大切に作る。

4-5 本時は、進行が非常に厳しいため、状況によっては、4-5最終案決定から次の時間に回すことも考えられる。4-5・4-6を次に回し、振り返りの部分を4時点までの振り返りにした上で取り組ませたり、宿題にしたりすることも方法の一つである。次にまとめて振り返らせる方法もある。

4-6 グループの発表者は、話し合いの過程やどの意見でみんなの考えが変化したのかを意識させる。時間により、発表グループ数を調整する。

4-6 発表の仕方で困っているグループには話形を示す
「初めは……だったのが ……」という意見を加えることによって…… に変わり、最終的には……という結果になりました。」

4-6 全員の前で発表したグループの良い点を取り上げて評価する。

5-1 記入が難しい生徒には振り返るポイントを示す。

「ペイオフマトリクス」 — 付箋を考えながら貼ることができたか？

「合意形成に向けた協議」 — 貼った付箋を動かしたり、バージョンアップさせたりして、話し合いを進められたか？

6-1 本時は、進行が非常に厳しいため、次の時間に押しこむことも考えられる。5-1・6-1の振り返りの部分を宿題にすることも方法の一つである。次にまとめて振り返らせる方法もある。その場合は、次時の3『評価項目』と『星取表マトリクス』の使い方についてペアで考える「部分省略」の部分を省略する。

第6時 本時の工夫にもあるように、全体を7時間構成にして、4時から6時までの学習の振り返りを7時にまとめて行う方法もある。

6 第6時 (7時間扱い)

(1) ねらい

最終案に対して多面的に課題を見出し、より効果的な取り組み方について理解を深めている。
 学んだことの意味を振り返り、それらを様々な場面で生かそうとしている。
 ①納得できる結論を目指して建設的な意見を述べる。
 ②学んだことを生かして考えを広げたり深めたりする。

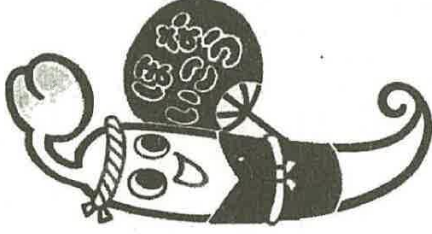
(2) 展開

必要なもの：ワークシート⑥、最終案まとめ用プリント・第5時で使用したマトリクス用模造紙
 ・もうひと工夫用模造紙 (模造紙 1/2大)・計時用の大きいタイマー・付箋
 ・もやしちゃん二種・ICT機器 (パワーポイント《以下PPP》を掲示する装置一式)

時間	学習内容・活動	教師の働きかけ	生徒の具体的な活動	指導上の留意点
導入 3分	1 これまでの学習を振り返り、本時の目標を捉える。(3分)	1-1 「前の時間に、ペイオフマトリクスを効果的に用いて、自分の考えを広げることについて学習しました。ただし、決まった案に対して、みなさん、本当に納得できていますか。」	● 生徒の具体的な活動 ● 予想される反応 ○ ペイオフマトリクスを思い出して質問に答える。 ● 「判断基準をそろえて決める」 ● 「たしかに、しっくりこない部分がある。」	□ 指導上の留意点 ■ 評価の観点・方法 □ 授業前の準備をし、質問に答える。 □ お机を四人グループにしておく。前時間の模造紙、本時の模造紙とワークシートを配布しておく。 ■ これまでの学習内容を思い出し、質問に答えている。(観察)
展開	2 「もうひと工夫」の使い方を理解する。(5分)	1-2 「今日の目標は、より良い取り組み方を考え出し、適切な話し合いについて考えを広げ、深めることです。そのために、今日は『もう一工夫』というスキルを使います。」 2-1 「今日の目標は、より良い取り組み方を考え出し、適切な話し合いについて考えを広げ、深めることです。そのために、今日は『もう一工夫』というスキルを使います。」 このような条件下で、この案が選ばれています。そこに、気がかりな点が挙げられ、それに対する対策が書かれています。」	○ 板書された目標の目録の箇所を示す。 ○ 「本時のスキル」を記入する。 ○ 「本時のスキル」を記入する。 ○ 用意されたモニターを見ながら、P、Pによる「もうひと工夫」の取り組み方の説明を聞く。 ○ ワークシートを見ながら、「もうひと工夫」の取り組み方の枠内に線を引いたり、大切なことをメモしたりする。 ○ 教師の説明を聞いている。 ● 「選ばれた案にも、問題点はある。」 ○ 教師の説明を聞いている。 ● 「気がかりを言葉にするのが大事。」 ● 「ペイオフマトリクスと同じだが、質も大事なんだな。」	□ Pが使用できる環境を用意する。それが難しい場合は、模造紙に模造紙を貼って、例を示す。 □ より良いアイデアのために気がかりという直感と、ペイオフマトリクスという分析の、二つのアプローチを確認する。
	2-2 「問題点を見つけたら、プリント『問題点を見つけたら、気になる2点を意識するよう』にしよう。」 「やり方は、ペイオフマトリクスと同じように、気がかりとその理由を書き、貼っていきます。」 ただし、ペイオフマトリクスと決定的に違うのは、質より量ではなく、質も大事なことですよ。」	2-2 「問題点を見つけたら、プリント『問題点を見つけたら、気になる2点を意識するよう』にしよう。」 「やり方は、ペイオフマトリクスと同じように、気がかりとその理由を書き、貼っていきます。」 ただし、ペイオフマトリクスと決定的に違うのは、質より量ではなく、質も大事なことですよ。」	□ 問題点を意識しながら活動に取り組んでいく。 ● 「こんな問題点があると思う。」 ● 「この問題点とこの問題点は、同じグループだ。」 ● この問題点は重要だから、どんな対策が考えられるかな。」	□ 問題点を意識しながら活動に取り組んでいく。 ● 「こんな問題点があると思う。」 ● 「この問題点とこの問題点は、同じグループだ。」 ● この問題点は重要だから、どんな対策が考えられるかな。」
	2-3 「対策を立てる際には、プリント『対策の立て方』にある3点を意識するよう』にしよう。グループにすすようにしよう。グループにすすように、課題が見えやすくなる。また、対策を絞るためにも、各グループの中で最も鋭い指摘を扱います。」	2-3 「対策を立てる際には、プリント『対策の立て方』にある3点を意識するよう』にしよう。グループにすすようにしよう。グループにすすように、課題が見えやすくなる。また、対策を絞るためにも、各グループの中で最も鋭い指摘を扱います。」	○ 教師の説明を聞いている。 ● 「対策を考えるのは、最も鋭いものに對してのみなんだ。」	□ 話し合いを通して考えを広げたり、深めたりしたことをまとめている。(ワークシート)

3 「評価項目」として「星取表マトリクス」の使い方を考える。(11分)	3-1 「それでは練習です。例にある『外国人中学生との交流会で行う』と良い、学費で行う取組』について、ペイオフマトリクスを探し、グループに付箋を貼っていきましよう。1」 3-2 「付箋と練習用プリントを配りまうので、すでに示されているもの以外で問題点を考え、思いついたものを付箋に書き、自分のワークシートに貼っていきましよう。また、対策も思いついたら、ワークシートに書きましよう。対策は、電教員だけでも構いません。」 3-3 「では最初の3分間は個人で考え、そのあとの5分間で問題点を整理し、対策を考えましよう。」 3-4 「では、練習開始。練習用プリントに、付箋を貼りながら、対策を書きましよう。」	○ 教師の説明を聞いている。 ● 「前回の練習テーマと同じだ。」 ○ 教師の説明を聞いている。 ● 「気がかりを付箋に書くの。」 ● 「対策も思いついたら書くの。」 ○ 教師の説明を聞いている。 ● 「時間を意識して進めよう。」 ○ 留意点を意識しながら活動に取り組んでいく。 ● 「こんな問題点があると思う。」 ● 「この問題点とこの問題点は、同じグループだ。」 ● この問題点は重要だから、どんな対策が考えられるかな。」(ワークシート)	○ 各ペイオフマトリクスの付箋と、一枚ずつの練習用プリントとを配る。 ○ ペイオフマトリクスは、一旦、机の中に片付けさせる。 ○ 黒板に、配当時間を書いておく。 ○ ペイオフマトリクスは、先に配った練習用プリントを使用させる。 ● 出された意見を配りまえて、新たな問題点や対策を考えている。(ワークシート)
「評価項目」として「星取表マトリクス」の使い方を適切に用いてグループで行う。(30分)	4-1 「それでは本題です。『この町を笑顔にする会』の活動を考えましよう。』 4-2 「前回まで、ペイオフマトリクスまで考えていますので、今回の目標は、導き出されたアイデアを、より良いものに練り上げることです。進め方は、ワークシートのとおりです。『もやしちゃん』を確認し、司会を中心に進めてください。(2分)	○ 各グループから一人ずつ、これまで作成したシート(②)と、今回使用するシート(④)とをそれぞれ各グループに渡す。 ● 「前回の続きをするんだな。」 ● 「自分の役割は司会なんだな。」 ○ 「理由も書かせる。」	○ 前回までの作成したシート(②)と、今回使用するシート(④)とをそれぞれ各グループに渡す。 ● 「前回の続きをするんだな。」 ● 「自分の役割は司会なんだな。」 ○ 「理由も書かせる。」
5 「話し合い」を振り返る。(5分)	5-1 「★話し合いの振り返りの記入をましよう。(もうひと工夫)はどうだったか、『話題』に対する考えの広がり、深まりはどうだったか、振り返ってくださよう。」	○ 「話し合いの振り返りの記入をましよう。(もうひと工夫)はどうだったか、『話題』に対する考えの広がり、深まりはどうだったか、振り返ってくださよう。」	○ 話し合いを通して考えを広げたり、深めたりしたことをまとめている。(ワークシート)

資料 (話し合いプログラム使用プリント)



もやしちゃん

目的
役割
進行
(ちやんと) ルール
を守るう!
ほんど?
なぜ?
いつもそう?
こうすれば?

6 話し合った結果を、グループ間で共有する (6分)	6-1「では、今日はこの単元の最後の時間なので、各グループで話し合った結果を共有したいと思います。各グループで、今日のシートに書いてください。」 6-2「では、他の班の話し合いの様子を見て回りましょう。面白いアイデアやまとめ方があったら、プリントにメモするようにしよう。」	○教師の説明を聞いている。 ○机の上に、2枚のシートを並べて置いている。 ○各グループが話し合った結果を見て回りながら、メモする。 ●「このアイデアは面白いな。」 ●「こんな評価項目もあるんだ。」 ●「この問題点の指摘は鋭いな。」	□貼る場所、貼り方を具体的に指示する。 □ワークシート下部の吹き出しを示す。 ■より良い話し合いについて関心を広げている。(観察)
7 本時の学習について振り返り、今後の生活への見直しをもつ。(1分)	7-1「では最後に、本時の目標が達成できたか振り返りましょう。『振り返ろう』に自己評価を記入してください。」 7-2「それぞれの時間で学んだことは、今後の様々な場面で活用できるものですから、今後は実際に使う中で、さらに身に付けていくようにしましょう。」	○本時の学習を振り返り、ワークシートに評価を記入する。 ○本時の内容とのつながりについて考える。	■4段階で自己評価している。(ワークシート)

(3) 本時の評価

- ① 「納得できる結論を目指して建設的な意見を述べる」ことについて最終案に対して多面的に課題を見出し、より効果的な取り組み方について理解を深めている。
- ② 「学んだことを生かして考えを広げたり深めたりする」ことについて最終案にもう一工夫を加え、他者の考えに触れながら、粘り強くより良い解決策を考えている。

(4) 授業のポイント

- 1-1 授業の冒頭で、最終案への納得感を確かめることで、胸に残るモヤモヤを晴らす術を学ぶ必要性に気付かせる。
- 2-1 パワーポイントなどのICT機器を用いると、テンポよく進められる。
- 2-3 「対策」という言葉は、「実践する際の留意点」として捉えさせる。したがって、挙げればきりがないため、時間の許す限りで、優先順位を付けながら確認させていく。
- 3-4 7時間構成にする時は、時間に余裕があれば取り組ませる。
今回のもうひと工夫のスキルは、ブレインストーミングやペイオマトリクスで体験済みであり、練習をせず、本題に入っても差し支えない。
- 4-4 対応策は、記録係がどんどん記入していく。対策として全員の納得が得られないものは、「ほなほな」と問いかけ合うよう指示する。その上で、全員の納得が得られる表現に改めて書かせる。
また、それでも全員の納得が得られなければ、その対策は不採用とし、別の対策について考えさせる。
- 5-1 前時のプログラムが、本時に食い込んでいるときは、5以降を家庭学習とする手もある。また、振り返りのみにもう一時間設定し、学習を振り返り、共有することで、学習を深める方法もある。
- 6-2 結論や、本時の内容だけでなく、これまでの議論のプロセス全般に目を向けさせ、気付きをメモさせる。

学習計画のように4時間目以降のプログラムが遅れがちである場合は、7時間構成で実施する方法をとる。
各時間の振り返りを家庭学習にしたり、授業の流れを優先させて、7時間目に、4時間目～6時間目までの学習の振り返りをまとめて行ったりする方法もある。
7時間目の振り返りは、話し合いの進行表による振り返り共有→話題や方向を捉えて話し合うによる全体の振り返り共有。時間があれば、話し合い完成版ワークシートによる、知識・技能の確認を行う。

「話し合いに参加した人全員に、納得感のある結論を出そう」

- ・時間配分を言っている
- ・今日の目標を言っている
- ・意見を言っている
- ・全員が意見を言っている
- ・相手の話をきちんと聞いている
- ・全員の話を頭ごなしに否定しない
- ・話し合いの進め方を言っている

(他の人の意見)

○良い話し合いのために必要なこと

- ②
- A「図書委員会の来月の活動計画について話し合います。多くの生徒が図書室を利用するようになるというのが目標です。時間は20分です。まず、2分間で意見を考え、その後、10分間、提案を出し合います。その後、意見を整理しながら決めたいと思います。では、意見を考えてください。」
- B「はい。今月は、一部の人がおしゃべりをしてたのが気になりました。読書マナーの呼びかけポスターを作つてはどうでしょうか。」
- A「呼びかけのポスターですね。Cさんはどうですか。」
- C「目標は利用者数を増やすことですね。図書委員のおすすめ本を、新聞で紹介するのはどうですか。」
- B「いくら人が来ても、マナーが悪ければ意味がないのでは。」
- A「まずは、全員の意見を聞きましょう。Dさんはどうですか。」
- D「私も、委員会新聞が良いです。本の面白さが伝われば、来る人は増えると思います。」
- (数分後)
- A「提案を出し合う時間は以上です。出された意見はこのようになりました。では、これらを整理して、まとめたり、比べたりしながら、一つに決めていきたいと思つています。」

- ①
- A「図書委員会の来月の活動計画について話し合います。Bさん、どうぞ。」
- B「え、いきなり？ええと。じゃあ、今月は一部の人がおしゃべりをしてたのが嫌だった。」
- A「他に意見はありませんか。」
- C「私は図書委員がおすすめる本を、委員会新聞で紹介するのよと思うな。」
- B「それはだめだよ。そんなつまらないよ。」
- C「さっき、一部の人がおしゃべりしてたと言つていただけ。」
- B「おしゃべりしてた？ではな、おしゃべり。」
- C「いや、おしゃべりしてたと言つてたんですよ。D君も何か言つてよ。」
- D「いや、おれはいいよ。」
- (数分後)
- A「あ、あと1分しかありません。じゃあ、多数決をとります。」

国語

組 番 氏名

【メモ欄】
「なるほど」「これは大事」「もっと知りたい」「なるほど」「おれはいいよ」

「話題や方向を捉えて話し合おう」 プリント①・②

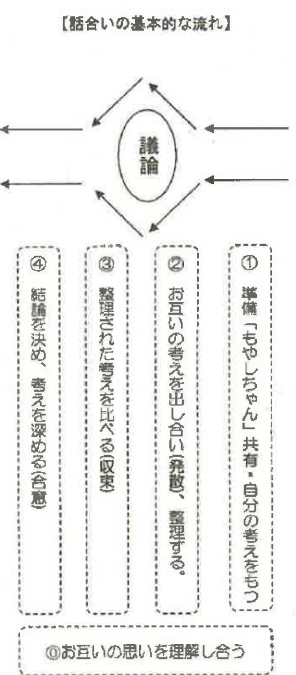
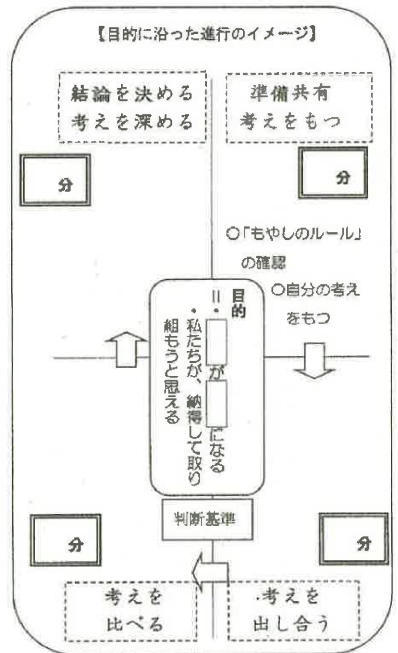
本時の目標 1 適切な話し合いについて関心をもち、そのための必要なことを理解する

1 二つの話し合いの例から、良い話し合いのために必要なことを考えよ。

【ある日の図書委員会における話し合い】

「話し合いに参加した人全員に、納得感のある結論を出そう」

- ★この單元で学習すること
- ① 良い話し合いのイメージ
 - ② 相手の話を聞き止める
 - ③ グループとしての意見の決め方
 - ④ アイディアの出し方
 - ⑤ アイディアの整理の仕方
 - ⑥ 話し合いの進め方の



- 「ちゃん」…「ちゃんルール」を守って話し合う
- ① 話題からそれない
 - ② 平等に発言する
 - ③ 意見を受け止める
 - ④ 意見をもちつ
 - ⑤ 考えを出し合う
 - ⑥ 考えを比べる
 - ⑦ 結論を決める
- 「し」…進行の見通しをもって話し合う(時間制)に話し合いの目的を切り替える
- 「や」「…役割を意図して話し合う」
- ① 司会 ② 記録 ③ 計時 ④ 発表 など
- 良い話し合いに必要な「もやしちゃん」
- ・「も」…目的を共有して話し合う(話し合い後に、何ができたようになっているか)
 - ・「し」…役割を意図して話し合う
- プリント①・②

【メモ欄】
「なるほど」「これは大事」「もっと知りたい」「なるほど」「おれはいいよ」



もやしちゃん

【メモ欄】
「なるほど」「これは大事」「もっと知りたい」「なぜ」「いつ」「どこ」「どうして」

【本時の目標】 適切な話し合いについて関心をもち、そのために必要なことを理解する

1 二つの話し合いの例から、良い話し合いのために必要なことを考えよう。

【ある日の図書委員会における話し合い】

①

A「図書委員会の来月の活動計画について話し合います。Bさん、どうぞ。」
 B「え、いきなり？えい、じゃあ、今月は一部の人がおしゃべりしていたのが嫌だった。」
 A「他に意見はありませんか。」
 C「私は図書委員がおすすめる本を、委員会新聞で紹介するのよと思うな。」
 B「それはだめだよ。そんなのつまらないよ。」
 C「さっき、一部の人がおしゃべりしていたと書いていたけど……」
 B「おしゃべりしていた？はなへ、おしゃべり？」
 C「いや、おしゃべりしたと言っていたんですけど。D君も何か言っています。」
 D「いや、おれはいいよ。」
 (数分後)
 A「あ、あと1分しかありません。じゃあ、多数決をとります。」

②

A「図書委員会の来月の活動計画について話し合います。多くの生徒が図書室を利用するようになるというのが目標です。時間は20分です。まず、2分間で意見を考え、その後、10分間、提案を出し合います。その後、意見を整理しながら決めたいと思います。では、意見を考えてください。」
 (2分後)
 A「それでは、話し合いに移りましょう。書記の友、記録をお願いします。では、Bさんから意見をどうぞ。」
 B「はい。今月は、一部の人がおしゃべりしていたのが気になりました。読書マナーの呼びかけポスターを作つてはどうでしょうか。」
 A「呼びかけのポスターですね。Cさんはどうですか。」
 C「目標は利用者数を増やすことです。読書委員のおすすめる本を、新聞で紹介するのはどうですか。」
 B「いくら人が来ても、マナーが悪ければ意味がないのでは。」
 A「まずは、全員の意見を聞きましょう。Dさんはどうですか。」
 D「私も、委員会新聞が良いです。本の面白さが伝われば、来る人は増えると思います。」
 (数分後)
 A「提案を出し合う時間は以上です。出された意見はこのようになりました。では、これらを整理して、まとめたり、比べたりしながら、一つに決めていきたいと思えます。」

○良い話し合いのために必要なこと

- ・自分の意見
- ・時間配分を言っている
- ・今日の目標を言っている
- ・書記を任命している
- ・全員が意見を言っている
- (他の人の意見)
- ・相手の話をきちんと聞いている
- ・全員の話を頭をなでして肯定している
- ・話し合いの進め方を言っている

「話し合いに参加した人全員に、納得感のある結論を出そう」

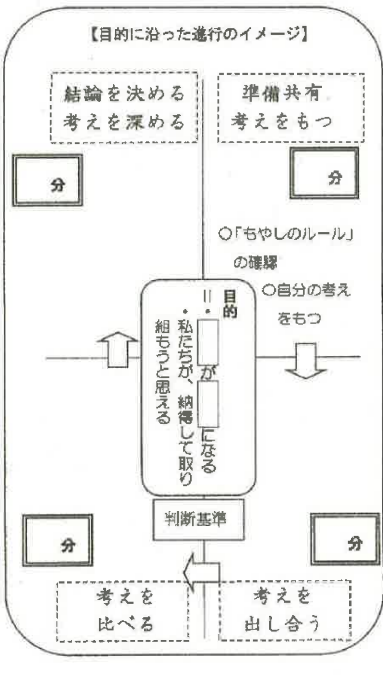
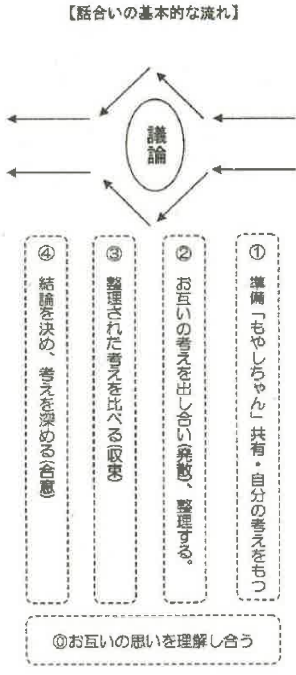
良い話し合いに必要な「もやしちゃん」

- ・「も」……目的を共有して話し合う(話し合い後に、何ができたようになったか)
- ・「や」……役割を意図して話し合う

- ① 司会 ② 記録 ③ 計時 ④ 発表など

- 「し」……進行の見通しをもって話し合う(時間等ごとに話し合いの目的を切り替える)
- ① 考えをもつ ↓ ② 考えを出し合う ↓ ③ 考えを比べる ↓ ④ 結論を決める

- 「ちゃん」……ちゃんルールを守って話し合う
- ① 話題からそれない ② 平等に発言する
- ③ 意見を受け止める



- ★この單元で学習するポイント
- ① 相手の話をよく聴く
 - ② 相手の話を打ち止める必要はない
 - ③ 話し合いの進め方の話し合い
 - ④ 話し合いの進め方の話し合い
 - ⑤ 話し合いの進め方の話し合い
 - ⑥ 話し合いの進め方の話し合い
 - ⑦ 話し合いの進め方の話し合い

「話し合いに参加した人全員に、納得感のある結論を出そう」

- 1 適切な話し合いについて関心をもち、そのために必要なことを理解することができる (4・3・2・1)
- 【振り返り】
- 4 さっそう
 - 3 ややさう
 - 2 ぶさぶさ
 - 1 さう



もやしちゃん

【メモ欄】
「なるほど」「これは大事」「もっと知りたい」「なぜ」「いつ」「どこ」「どうして」

「話し合いに参加した人全員に、納得感のある結論を出そう」

○良い質問をするために必要なこと

・詳しく聞く・他にあるか聞く

・相手の言葉を繰り返し返す

・相手の言葉を自分の体験で似た言葉で言い換える

・あいづちを打つ、驚く

○話をしっかりと受け止めるために必要なこと

- ①
- A 「大切にしている言葉は何ですか？」
 B 「今は、「意専心」という言葉を大切にしています。」
 A 「それは、意専心、ですか？」
 B 「そう、一つのことには集中する、という意味の言葉です。」
 A 「つまり、色々な懸念は流されないように、ということですか？」
 B 「そうですね。テスト前とか、勉強できずにゲームをしてしまうことがよくあるのですね。」
 A 「うんうん。」
 B 「そうですね、後で後悔するんですね。だから、机の前に「意専心」という言葉を貼っています。」
 A 「そうですね。言葉を貼るってすごいですね。大きさはどれくらいですか。くわしく教えてください。」
 B 「はがきの半分くらいの大きさですよ。でも、貼ってあると、目にしたときに、ふっと初心に戻れますよね。」
 A 「私も、机にプロ選手のサインボールを飾って、これを見ながらプロの選手になりたいと思ったことがあるのですが、それと似ていますか？」
 B 「そうですね。ただ、ずっと貼りっぱなしにしていると、新鮮さがなくなるので、そう感じたら新しい言葉を貼ることにしています。」
 A 「なるほど、では、テスト勉強のほかに、その「意専心」の心がけが生きたことはありますか？」

②

- A 「大切にしている言葉は何ですか？」
 B 「今は、「意専心」という言葉を大切にしています。」
 A 「それは、意専心、ですか？」
 B 「そう、一つのことには集中する、という意味の言葉です。」
 A 「つまり、色々な懸念は流されないように、ということですか？」
 B 「そうですね。テスト前とか、勉強できずにゲームをしてしまうことがよくあるのですね。」
 A 「うんうん。」
 B 「そうですね、後で後悔するんですね。だから、机の前に「意専心」という言葉を貼っています。」
 A 「そうですね。言葉を貼るってすごいですね。大きさはどれくらいですか。くわしく教えてください。」
 B 「はがきの半分くらいの大きさですよ。でも、貼ってあると、目にしたときに、ふっと初心に戻れますよね。」
 A 「私も、机にプロ選手のサインボールを飾って、これを見ながらプロの選手になりたいと思ったことがあるのですが、それと似ていますか？」
 B 「そうですね。ただ、ずっと貼りっぱなしにしていると、新鮮さがなくなるので、そう感じたら新しい言葉を貼ることにしています。」
 A 「なるほど、では、テスト勉強のほかに、その「意専心」の心がけが生きたことはありますか？」

1 左右二つの例から、気持ちの良い会話のために必要なことを考えよう。
 【その人の魅力を引き出すペアーインタビュー】
 本時のスキル ① 話の受け止め方 ② 質問の仕方

本時の目標 1 異なる考えを受け止め、様々な考えを引き出す質問をしながらか聞く

国語 組 番 氏名 ()

【メモ欄】
 「なるほど」「これは大事」「もっと知りたい」「なぜか」
 などと書いたこと



「話し合いに参加した人全員に、納得感のある結論を出そう」

1 異なる考えを受け止め、様々な考えを引き出しながらか聞くことになりました
 (4・3・2・1)

【振り返り】 (4) その思う (3) ややその思う (2) あまりその思うない (1) その思うない

項目	自己評価	理由 など
相手の悪いを受け止める話し合い力	◎・○・△	
話題に対する考えの広がり・深さや	◎・○・△	・スパンが広い「～」を出して、色々な考えを引き出したこと ・「～」を出して、色々な考えを引き出したこと

★話し合いの振り返り

(4) ルール： ①全員が発言する ②話題からそれない ③時間内に終わる

- (1) 目的： 相手に心地よく話してもらいながら、人ごらの魅力を引き出す
 (2) 役割： ①質問する人 ②質問に答える人
 (3) 進行： ①「もしルール」(目的、役割、進行、ルール)を確認する【1分】
 ②次の中から、話のテーマを選びながらインタビューを行う【3分】
 ・好きな場所
 ・自己評価
 ・自分を表す漢字
 ・願いが一つかなうなら、
 ・一番頑張ったこと
 ・あこがれの人物
 ・思いついた深い学校行事
 ・休みの過ごし方
 ・毎日必ずしていること
 ・「たわいの道具」もの

2 話の受け止め方と質問の仕方を意識して、ペアーインタビューを行おう。

★話の受け止め方について (「あ・お・い・ふく」)

方法	具体的な言葉 (例)
あ いづち	(相手の目を見て、首を軽く傾ける) 「うんうん」「なるほど」 「わかるわかる」
お だろき	「へえ」「そうなんだ」 「……ってすごいですね」
い いかえ	「つまり、……ということですか」
ふく しょう	「……ですか」「……ですね」

★話を引き出す質問の仕方について

方法	具体的な言葉 (例)
深める	「…というところ？」 「…っていつ？」
	「…ってどこ？」 「…って誰？」
	「…って何？」 「…ってなぜ？」
	「…ってどれくらい？」 「…ってどんな様子？」
広げる	「…の他には、何かある？」 「～という考え方はないかな？」

プリント②-2

【メモ欄】
 「なるほど」「これは大事」「もっと知りたい」「なぜか」
 などと書いたこと

覚えよう！
 もやしちゃんとおおいふく
 (というところ？他に何かある？)

「それでは、〇〇という目的でインタビューをします。
 役割は、私が〇〇で、〇〇さんが〇〇です。
 進め方は、まず最初の●分間で〇〇をして、次に、
 ●分間で〇〇をします。
 〇〇ということを守って話し合います。
 では、よろしくおねがいします。」



「話題や方向を捉えて話し合おう」 プリント④-1

本時の目標 1 話し合いの材料を効果的に集め、整理する

本時のスキル ① プレインストーミング ② グループング

1 考えの出し合い方について知ろう

(1) プレインストーミング… 一つのテーマについて、自由に自分の考えを出すこと。発

言を広げることができ。

「ポイント」 ① 質より量 ② 批判しない(「あ・あ・い・ふく」を大切に) ③ 思いつきのまま自由 ④ 出された考えから連想して考える

★「小学生の交流会で何をやる？」というテーマで連想する場合

「例」 「ア」で本の読み聞かせ → 「ア」で中学校を案内 → 「ア」で中学校のクイズ →

(2) グループング

似たアイデアをいくつかのグループにまとめること。出された考えのまとまり具合(傾向)が分かる。

「ポイント」 ① 最初から大きなグループにしない(一枚でグループになってもよい) ② 単語やあいまいな語句ではなく、短い文で具体的に書く。

★「小学生との交流会で何をやる？」というテーマでラベルを付ける場合

意見の内容の共通点でまとめる方法

「小学生が話を聞く」
ペアで本の読み聞かせをする(親しみをもってもらえるか)
ペアで中学校を案内する(中学校の校舎や様子を伝えられるから)

意見の内容の理由でまとめる方法

「喜んでもらいたい」
ペアで本の読み聞かせをする(親しみをもってもらえるか)
希望する部活動の体験をしてもらう(一緒に楽しめるから)

2 ペアで「プレインストーミング」と「グループング」を練習しよう

練習テーマ 「学年レクの内容を考えよう」

○目的 学年のみんなが、学年・クラスの団結を深められるようになる

・私たちが、納得して取り組もうと思える

↓ 今回の課題 学年レクで行う案を、グループに分けながら多く挙げる

○進行 ①個人で考え、アイデアをふせんに書く。

②自分の考えと理由を順番に説明し、別紙の紙に貼っていく。

③出されたものをもとに、話し合いながらアイデアを増やす。

④グループに分けて、ラベルを付ける。

⑤ラベルを見ながら、さらに考えを付せんに書いて付け足す。

【条件】 3月、5・6時間目に、教室または体育館で行

「なるほど」「これは大事」「もっと知りたい」「なぜか」「かむと思っただけ」

★付せんに書く場合

①出席番号を書く ②なるべく具体的に書く。③できれば、理由も書く(簡単に)

ペアで本の読み聞かせをする(親しみをもってもらえるか) ②

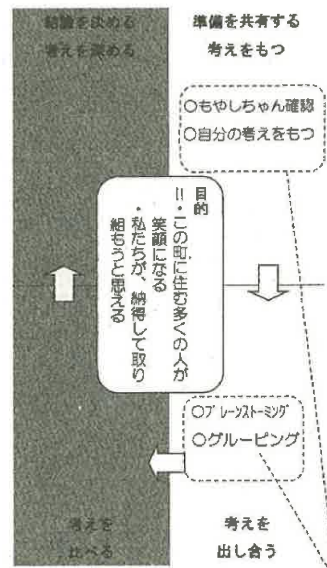
ペアで本の読み聞かせをする ①

読み聞かせ ③

2 「プレインストーミング」と「グループング」を活用して、課題を解決しよう。プリント④-2

テーマ「この町に住む人々を笑顔にする活動を考えよう」

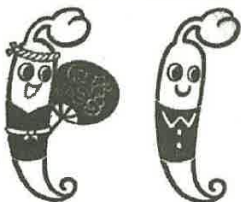
【目的に沿った進行のイメージ】



★話し合いの振り返り

項目	自己評価	理由など	時間
1	○	「もやしのルール」(目的と今回の課題、役割、進行、ルール)を確認する。 ○目的 〓この町に住む多くの人が笑顔になる。 私たちが、納得して取り組もうと思える。 ↓ 今回の課題 〓活動の案を、グループに分けながら多く挙げる ○役割 〓司会 〓記録 〓計時 〓発表 ○進行 〓この表の通り ○ルール 〓全員が発言する 〓話題がそれない 〓時間内に終わる 〓プレストルール 個人で考え、アイデアをふせんに書く(出席番号も)。 ★異色の3人ペアで話し合いを深める	1分
2	○	自分の考えと理由を、グループ内で順番に説明する。	3分
3	○	出されたものをもとに、話し合いながらできるだけ考えを増やす。	10分
4	○	出された考えをグループに分け、ラベルを付け、さらに考えを増やす。 ★質より量、批判しない、思いつきのまま自由、連想して考える	6分
5	○	結果を、話の広がり・深まりとともに、グループ内で発表(確認)する。	6分
6	○		1分

項目	自己評価	理由など
話し合いの振り返り	○・○・△	話し合いの振り返り
話し合いの材料を効果的に集め、整理することできた	○・○・△	話し合いの振り返り



【話し合いにおける役割】

司会 進行の見通しをもつて、ルールが守られるように話し合いを進める
(例)「それでは、話し合いを始めます。目的は……。役割は、司会が私、書記が……。進行は……。ルールは……。では、始めます。」

記録 出された意見を、ボード上に整理する
(例)「意見を書いた付せんをください」「出席番号を書き忘れ

計時 各進行に割り振られた時間の半分経過、終了1分前、終了を、それぞれ伝える
(例)「半分経過しました。あと、〇分です。」「あと1分です。」「時間です。」

発表 話し合った結果を、話の広がり・深まりとともに、簡潔に発表・確認する
(例)「話し合いの初めは……。でした。そして、……。という意見がきっかけで、……。というようになり、最後は……。となりました。」

「なるほど」「これは大事」「もっと知りたい」「なぜか」「かむと思っただけ」

練習テーマ 「学年レクの内容を考えよう」

○目的 Ⅱ 学年のみんなが、学年・クラスの団結を深められるようになる
・私たちが、納得して取り組もうと思える

↓ 今回の課題 Ⅱ 学年レクで行う内容の案を、一つに決める

○進行 Ⅱ ①後のアイデアが出されたとして、自分の考えを後のペイオフマトリクス上に、**対立**でメモする。
②ペアで別紙に考えを共有し、アイデアに「ひと工夫」を加えながら、結論を一つに決める。

【条件】
3月、5、8 教休
時間 目 1、は 行
場 所 室 育 館

- (A) クラス対抗のドッジボール大会(クラスメイトと協力できるから)
- (B) リーグ戦のハンカチ落とし(誰でも楽しめるから)
- (C) クイズを交えたクラス紹介(お互いを知ることができるから)
- (D) 平づくりの作品を展覧するビンゴゲーム(みんなの個性が出るから)
- (E) 各教室でのお楽しみ会(クラスのみんなのことがよく分かるから)
- (F) クラス混合チームの大綱遊び(学年のみんなを仲良くなれるから)

効果が大 (縦軸) / 効果が小 (横軸)

簡単に見える / 難しい (横軸)

「ペイオフマトリクス(十ひと工夫)」を練習しよう

1 意見の比べ方について知ろう

「効果が大、小さい」「簡単に見える、難しい」という二つの軸の上
に「ふせん」をそれぞれ置き、その優先順位を考えるための図表

効果が大 / 効果が小

簡単に見える / 難しい

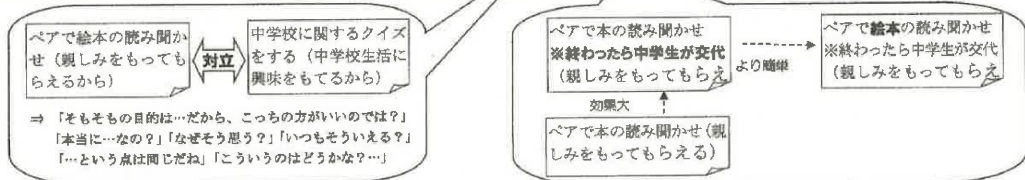
ポイント
①意見同士が、縦または横一列に並び、並ばないよう工夫する(少しずらす)
② Eより効果があるが、Dより難しい
③ Eより効果があるが、Dより難しい
④メンバーで二つの難しい意見を選び、その間に二つの意見がある(「ひと工夫」を大切にする)

国語 組 番 氏名 ()

「話題や方向を捉えて話し合おう」 プリント①・1

本時のスキル Ⅱ ① ペイオフマトリクス(十ひと工夫)

本時の目標 Ⅱ 意見同士を比較して、自分の考えを広げる



「振り返り」 (4) そう思う (3) ややそう思う (2) あまりそう思わない (1) そう思わない

意見同士を比較して、自分の考えを広げることができた (4・3・2・1)

★話し合いの振り返り

項目	自己評価	気づいたこと、できたこと、難しかったこと、その理由など
話し合いの振り返り	◎・○・△	「ペイオフマトリクス」について
話し合いの振り返り	◎・○・△	他の人の意見や自分の意見について「なるほど」「これは大事」「もっと知りたい」「なぜか」と思っていたら

準備方	話し合う内容	時間
1	「ちやのルール」(目的と今回の課題、役割、進行、ルール)を確認する。 ○目的 Ⅱ この町に住む多くの人々が笑顔になる。 ・私たちが、納得して取り組もうと思える ↓ 今回の課題 Ⅱ 活動の案を、一つに決める ○役割 Ⅱ ①司会 ②記録 ③計時 ④発表 ○進行 Ⅱ この表の通り ○ルール Ⅱ ①全員が発言する ②話題からそれない ③時間内に終わる 候補となるアイデアを、一人一つ選び、順番を並べて、さらに一人一つ選ぶ。 ★その順番は、そのルールの中で決める ペイオフマトリクス上に、理由を述べて相談しながら、一つ一つの意見の位置を決める。 ★最終的に一つの案を選び、その案を修正して、新しく生み出したりしながら、位置を変える。 ★必ず、よりよい案を生み出すまで、話し合う。 ★目的と課題を確認し、意見の整理や修正を行う。	1分
2	候補となるアイデアを、一人一つ選び、順番を並べて、さらに一人一つ選ぶ。 ★その順番は、そのルールの中で決める ペイオフマトリクス上に、理由を述べて相談しながら、一つ一つの意見の位置を決める。 ★最終的に一つの案を選び、その案を修正して、新しく生み出したりしながら、位置を変える。 ★必ず、よりよい案を生み出すまで、話し合う。 ★目的と課題を確認し、意見の整理や修正を行う。	3分
3	それぞれのアイデアを修正したり、新しく生み出したりしながら、位置を変える。 ★必ず、よりよい案を生み出すまで、話し合う。 ★目的と課題を確認し、意見の整理や修正を行う。	13分
4	表の右上にある最終的な案同士を比べ、結論を出す。 ★必ず、よりよい案を生み出すまで、話し合う。 ★目的と課題を確認し、意見の整理や修正を行う。	4分
5	結果を、話の広がり・深まりとともに、グループ内で発表(確認)する。	1分
6		

2 「ペイオフマトリクス」を活用して、課題を解決しよう。

課題 Ⅱ 「この町に住む人々たちを笑顔にする活動を考えよう」

【目的に沿った進行のイメージ】

準備を共有する 考えをもつ

○ちやちゃん確認
○自分の考えをもつ

目的 Ⅱ この町に住む多くの人々が笑顔になる。
・私たちが、納得して取り組もうと思える

ペイオフマトリクス

考えを比べる

準備を共有する 考えをもつ

○ちやちゃん確認
○自分の考えをもつ

目的 Ⅱ この町に住む多くの人々が笑顔になる。
・私たちが、納得して取り組もうと思える

ペイオフマトリクス

考えを比べる

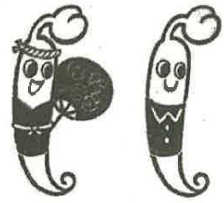
準備を共有する 考えをもつ

○ちやちゃん確認
○自分の考えをもつ

目的 Ⅱ この町に住む多くの人々が笑顔になる。
・私たちが、納得して取り組もうと思える

ペイオフマトリクス

考えを比べる



【話し合いにおける役割】

司会 進行の見通しをもつて、ルールが守られるように話し合いを進める
(例)「それでは、話し合いを始めます。目的は……。役割は……。進行はまず……。ルールは……。では、始めます。」

記録 発言された意見を、ボード上に整理する
(例)「これよりもこっちの方が右上ですね。」「このアイデアは、……という修正でいいですか。」

計時 各進行に割り振られた時間の半経過、終了1分前、終了を、それぞれ伝える
(例)「半経過しました。あと、〇分です。」「あと1分です。」「時間です。」

発表 話し合った結果を、話の広がり・深まりとともに、簡潔に発表・確認する
(例)「話し合いの初めは……。そして、……という意見がきっかけで、……というようになり、最後は……となりました。」

「なるほど」「これは大事」「もっと知りたい」「なぜか」と思っていたら

「もうひと工夫」を練習しよう

練習テーマ 「学年レクの内容を考えよう」

○目的 Ⅱ 学年のみんなが、学年・クラスの団結を深められるようになる
私たちが、納得して取り組もうと思える

↓ 今回の課題 Ⅱ 学年レクの最終案を、より良いものに練り上げる

○進行 Ⅲ ①すでに選ばれている最終案における問題点を個人で考え、せんに書く
②自分の考えと理由を順番に説明し、別紙の紙に貼っていく
③出されたものをもとに、さらに気がかりや問題点を増やす
④出された意見をグループに分けて、ラベルを付ける
⑤各グループの中の代表的な指摘に対する対策を決め、それぞれ書き込む

【最終案】
クラス混合チームの大綱読み(学年良くなるから)

【条件】
3月、5・6時間目に、教室または体育館

お土産が当たるスタン
プラリー形式にする

小学生が受け身になる
面白さが足りない(小学生が受け身になるから)

理想(中学生の話聞くだけだから)

【最終案】
ペアで中学校を案内する(中学校の教会や様子を伝えられるから)

ペアではなく、中学生・小学生二人ずつにする

説明が苦手な中学生もいる
説明が下手な人に当たったらかわいそう(苦手な人もいるから)

全員に同じ説明ができるか(担当する中学生が違うから)

場所ごとに滞在時間を計画して決めておく

説明マニュアルを作り、それを読んで伝える

【例】小学生との交流会の内容を考える場合

1 意見の練り上げ方(もうひと工夫)について知ろう

① 導き出された案をさらによくするために、隠れている問題点を出し合い、それぞれ対策を考えることで、取組への納得感を高められる

② 最終案を実施するにあたり、気がかりや疑問に思う点はないか

③ ②に対する具体的な手立てを考え、矢印を引いて書く

④ 似たような「気がかり」をグループヒソヒソする

⑤ それぞれのグループの中で、代表的な指摘を一つ選ぶ

⑥ ⑤に対する具体的な手立てを考え、矢印を引いて書く

時間があれば、他の指摘に対する手立ても考える

本時のスキル Ⅱ ① 十もうひと工夫

本時の目標 1 より良い取り組み方を考え出し、考えを深める

「話し合いの方向を捉えて話し合おう」 プリント①-1

「なるほど」「これは大事」「もっと知りたい」「なぜ?」「なぞと思ったり」

「あ・お・い・んく」を大切に

「あ・お・い・んく」を大切に

とく

「話し合いの振り返り」

項目	自己評価	気づいたこと・できたこと・難しかったこと・その理由
やりと工夫	◎・○・△	・気づかずに「質問」を繰り返す ・「話し合い」の目的を明確にしない ・「話し合い」の時間管理ができていない
話題に対する考えの広がり・深まり	◎・○・△	・興味深い話し合いの事例も、自分の考えの整理・その後のこと

④ さらにもうひと工夫 ③ ややさらにもうひと工夫 ② ささらにもうひと工夫 ① さらにもうひと工夫

★話し合いの振り返り

話し合う内容

時間	内容
分	1 「もやしのルール」(目的と今回の課題、役割、進行、ルールを確認する) ○目的 Ⅱ この町に住む多くの人が笑顔になる ・私たちが、納得して取り組もうと思える ↓ 今回の課題 Ⅱ 最終案を、より良いものに練り上げる ○役割 Ⅲ ①司会 ②記録 ③計時 ④発表 ○進行 Ⅲ この春の通り ○ルール Ⅲ ①全員が発言する ②話題からそれない ③時間内に終わる
分	2 最終案における問題点を個人で考え、せんに書く(比喩書きも) ★気がかりな、懸念・他の案に対して最終案に足りない点を挙げる ★具体的に、理由を書く 自分の考えと理由を、グループ内で順番に説明する 出されたものをもとに、さらに気がかりや疑問点を増やす。
分	3 出された意見をグループに分けて、ラベルを付ける。 各グループの中の代表的な指摘に対する対策を決め、それぞれ書き込む。 結果を、話の広がり・深まりとともに、グループ内で発表(確認)する。
分	4 【条件】 冬休みのなかの一日、全員で行うこと

話し合った内容を別紙に整理して、グループとしての具体的な取り組み方を決め、決定(合意)する。

3 導き出されたアイデアの改善を回りながら、課題を解決しよう。

課題 Ⅱ この町に住む人々を笑顔にする活動を考えよう

【目的に沿った進行のイメージ】

結論を決める 考えを深める

準備を共有する 考えをもつ

○もうひと工夫

○もやしちゃん確認
○自分の考えをもつ

目的
Ⅱ この町に住む多くの人が笑顔になる
・私たちが、納得して取り組もうと思える

考えを比べる

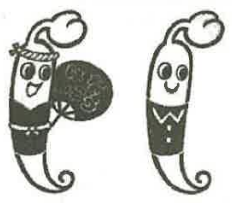
考えを出し合う

今回やること

プリント①-2

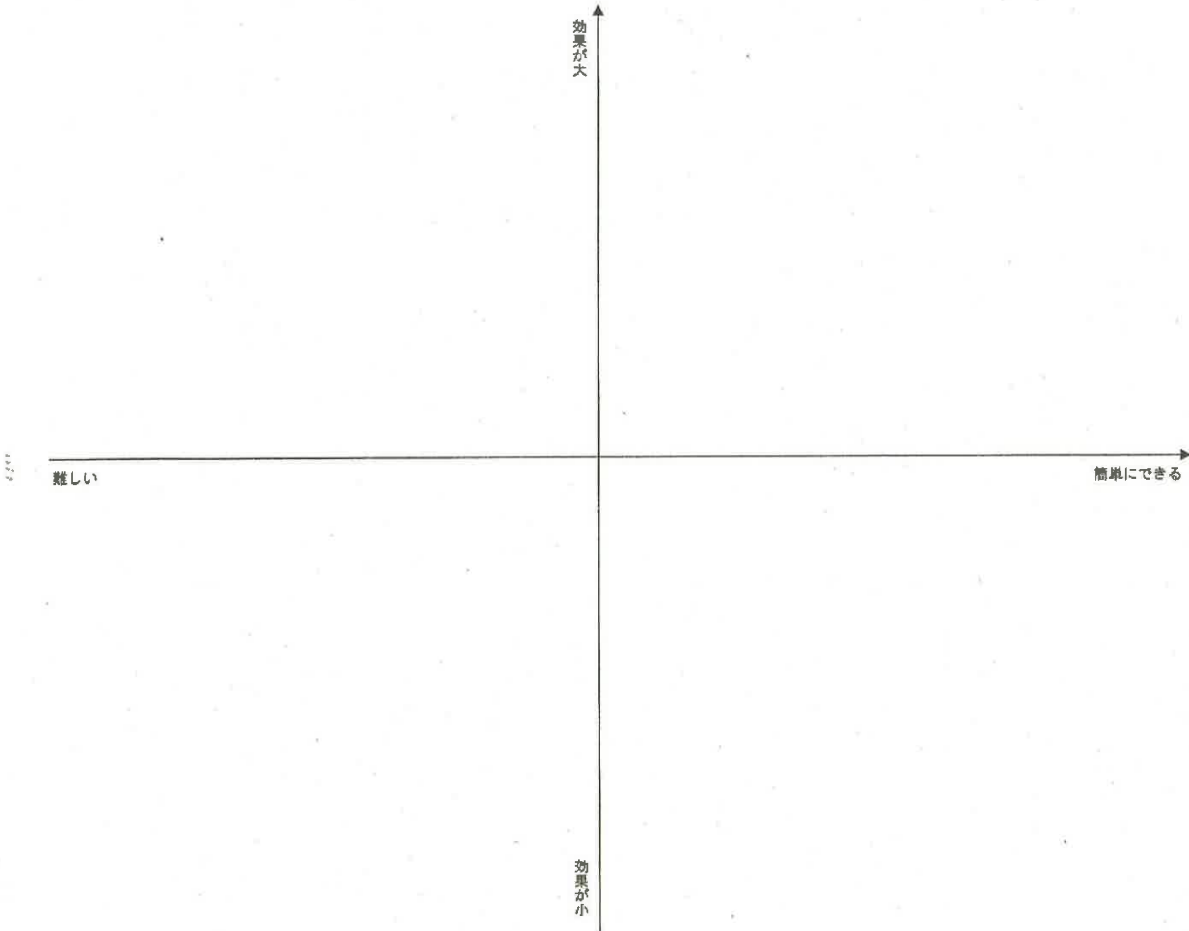
【話し合いにおける役割】

同 全	計 時	発 表
進行の見直しをもって、ルールが守られるように話し合いを進める (例)「それでは、話し合いを始めます。目的は……。役割は……。進行はまず……。ルールは……。では、始めます。」	各進行に割り振られた時間の半分経過、終了1分前、終了を、それぞれ伝える (例)「半分経過しました。あと、〇分です。」「あと1分です。」「時間です。」	話し合った結果を、話の広がり・深まりとともに、簡潔に発表・確認する (例)「話し合いの初めは……。でした。そして、……。という意見がきっかけで、……。というようになり、最後は……。となりました。」
発言された意見を、ボード上に整理する (例)「この指摘はこの指摘は似ていますね。」「この指摘への対策は……。でいいですか。」		



【メモ欄】

「なるほど」「これは大事」「もっと知りたい」「なぜ?」「なぞと思ったり」



クラス対抗のドッジボール大会 (クラスメイトと協力できるから)

A

リーグ戦のハンカチ落とし (誰でも楽しめるから)

B

クイズを交えたクラス紹介 (お互いのことを理解できるから)

C

手づくりの作品を景品にするビンゴゲーム (みんなの個性が出るから)

D

各教室でのお楽しみ会 (クラスのみんなのことがよく分かるから)

E

クラス混合チームの大縄跳び (学年のみんなを仲良くなれるから)

F

- 目的**
- ①学年のみんなが、学年・クラスの団結を深められるようになる
 - ②私たちが、納得して取り組もうと思える

学年レクの内容

【条件】 3月、5・6時間目に、
教室または体育館で
行うこと

組 グループの提案 氏名 _____

この町に住む人たちを笑顔にする活動

1 提案する活動

〔活動〕

〔理由〕

2 活動上の工夫・留意点 (どのようになると、どうなる?)

3 期待される効果 (どんな人が、どうなる?)

最終案に選ばれた、ふせんに書かれてある言葉をもとにして考える

ペイオフマトリクスで行った「ひと工夫」や、最後の「もうひと工夫」の内容と効果を書く。かじょう書きでよい。

話し合いの目的(「なるほどな」という納得度と、「これならやれる、やろう」という実行・実現度)を踏まえ、「〇〇が…になる」の形を基本にまとめる

- 目的 ①学年のみんなが、学年・クラスの団結を深められるようになる
②私たちが、納得して取り組もうと思える

学年レクの内容

【条件】3月、5・6時間目に、教室または体育館で行うこと

〔最終〕

クラス混合チームの大縄跳び(学年のみんなと仲良くなれるから)

テーマ 「この町に住む人たちを笑顔にする活動を考えよう。」

前提条件

・冬休みの中の一日で、クラス全員で行う。 ・この町 = 中学校学区

合意：結論まとめ

4 選ばれた案が、より実現しやすいものになるように、もうひと工夫しました。

・最終案は「 」が選ばれました。しかし、みんながより納得して、この案に取り組もうと思えるように、それぞれにこの案に対して、気がかりなことあげてもらい、その対応策を皆で考えました。例えば「 」と「 」という気がかりに対して、「 」という対応策をたてました。こうやって、いろいろと粘り強く工夫して、考えを広げたり深めたりするなかで、よりよい結論を出すことができました。

1 話し合いの準備をしました。

共有：話し合い準備
・「もやしちゃんと青い服」・「ほないこう」の確認をしました。
・テーマについて、方向性をそろえる前提条件を確認した後、個人の考えを準備しました。
私は「 」
理由は「 」や「 」
理由は「 」
という案を、準備として考えました。

目的1 「生み出したい成果」

この町に住む多くの人々が笑顔になる活動を考える

目的2 「終わった時のメンバーの気持ち」

私たちが納得して取り組もうと思える

3 ペイオフマトリクスを使って、それぞれの考えを比較・整理しました。

・私は、「 」と、「 」という案をペイオフにかけました。
・グループでは、「効果」と「やりやすさ」の判断基準でペイオフにかけたら、案として「 」が優勢でした。しかし、「 」という案に「 」というひと工夫を加えたり、「 」という案に「 」というひと工夫を加えたりして、考えを広げ・深めて、よりよい活動を考えました。

2 プレゼンテーションを使って自分の考えを広げました。

・一人ずつ自分の考えを、順番に理由とともに発表しました。その時、自分の考えた案に、さらに「 」や「 」という案を追加できました。
・案の理由に注目して、「 」個のグループに分けました。
・それぞれのグループに一文で名前をつけました。
例えば「 」

収束：意見比較

発散：意見出し

「話題や方向を捉えて話し合おう」 プリント⑦-2 組 番氏名
○下の から選んで空欄を埋めたり、適切な答えを○で囲んだりしながら、授業を振り返ろう。

話題や方向を捉えて話し合おう④での学習の目標は「話し合いの材料を効果的に集め、整理する」です。そのため身に着けたスキルは「 アイデア出しのための代表的なルールがあります。一（質・量）より（質・量、二（賛成・否定）しない、三のつかりOKです。一、まず個人でアイデアをどんなアイデアの（ ）も付箋に書き込みます。2アイデアをグループに出します。アイデアと理由を説明しながら、ふせんを貼っていきます。どんなアイデアでも否定なしで、他の人のアイデアから連想して新しいアイデアが浮かんだら、それも発表します。3ひとととりアイデアが出きつたら、ふせんを（ ）します。（意見・理由）でグループビンゴする方法のほうが、後で実行しやすいプランになります。グループビンゴはなるべく（大きな・小さな）グループにします。グループビンゴが終わったら、それぞれのグループに小見出しを貼ります。（単語・一文）ではなく、（単語・一文）でまとめてみましょう。

話題や方向を捉えて話し合おう⑤での学習の目標は「意見同士を比較して、自分の考えを広げる」です。そのために身に着けたスキルは「 ペイオフマトリクスでは、まず、縦軸と横軸それぞれの（ ）（と）（やりやすさ・おもしろさ）を判断基準にしました。ペイオフマトリクスを行うのは、お互いの意見をわかりやすく比較するためですが、最終の目的は、皆が（反対・納得する）よい案を作ることです。そのために、いったんペイオフマトリクスをしたところで、ひと工夫を加えて、それぞれの案を、ペイオフマトリクスの（右上・右下・左上・左下）の方向に引き上げてより良い案にしていきたいと思います。

話題や方向を捉えて話し合おう⑥での学習の目標は「意見の検討を通して自分の考えを広げ、深める」です。ペイオフマトリクスとひと工夫で、最適となった案にさらに、（ ）を加えて、さらによくするため、隠れている課題を出し合い、対策を考えます。話し合いの目的は、話し合うことで、より良い、皆の納得度が（高い・低い）、実行できる案を作ることです。粘り強くいろいろやりながら、より良い結論に向けて、考えを広めたり、深めたりしていくことが大事です。具体的には、選ばれたアイデアに対して、（ ）の手法で、気がかりをだします。ただし、プレスト三つのルールのうち、（質・量）より（質・量）ではありません。現実にとって実現する上での気がかりをしつかり考えましょう。
1個人で気がかりと、その（ ）をふせんに書きます。2グループに発表しました。3グループビンゴと見出しつけをします。4各グループの代表意見を選び、それぞれについて対応策を協議します。それぞれの気がかりに対して最終対応策を選ぶ必要があれば、ペイオフで判断しましょう。

話題や方向を捉えて話し合おう⑦では、話し合いの最終結論をまとめ、どのような話し合いが行われて、このような結論になったのかを全体に報告します。自分の参加した話し合いについて、何を学び、何ができたようになったか振り返ります。

判断基準	効果	ひと工夫	もうひと工夫	気がかり	理由	理由
プレゼンテーション	プレゼンテーション	プレゼンテーション	グループビンゴ	ペイオフマトリクス	一文	一文